

閣議請議

「ドーズ」案実施ニ関スル協定ニ調印方訓令ノ件

国際會議開催セラレ今般大要別紙ノ如キ協定ニ仮調印ヲ了シ来ル三十日正式調印ヲ為ス筈ニ相成居候處帝國ニ取り本

協定ハ之ヲ實質上ヨリ見ルモ將又形式上ヨリ見ルモ直ニ調印可然ト思考セラレ候ニ付テハ在英林大使ニ対シ左記ノ通

調印方訓令致度(省略)別紙説明書相具シ此段閣議ヲ請フ

貴電第五八八号ニ関シ調印差支ナシ 記

事項二 國際紛争ノ平和的処理ニ関スルジュネーヴ議定書關係

二二 九月四日 在ジュネーヴ連盟総会代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

第五回連盟総会開會冒頭ノマクドナルド英國

首相演説ノ要旨報告ノ件

(九月五日接受)

第一三号 九月四日總会ニ於ケル英首相演説要旨左ノ如シ

国防ノ安全ハ軍備ト軍人ノミニテ確保スルヲ得ス軍事同盟

ハ國際關係ヲ戰前ノ事態ニ復帰セシムルノミ国防ノ安全ト

軍備制限トニ関スル連盟從來ノ努力ハ大ニ多トスルモ相互

援助条約ハ規定極メテ漠然タリ国防ノ安全又ハ侵略ト言フ

モ其意義明確ナラス真ニ国防ノ安全ヲ期セントセハ先ツ國

際連盟ノ規模ヲ拡大シ米・独・露ヲ加入セシメ各種仲裁裁

判ノ制度ヲ完成シ单ニ法律問題ノミナラス政治上總テ國際

關係ヲ危殆ナラシムヘキ問題ニ付テハ條理ニ依リ公平ナル

解決ヲ与フルコトヲ期セサルヘカラス左リ乍ラ吾人ハ今過

渡時代ニアリ旧式政治ノ弊害ヲ矯正セントセハ宜シク着実

穩健ナル方法ニ依リ準備スル処ナカルヘカラス而シテ常設

國際裁判所規約中心訴義務ニ關スル規定カ如何ナル点迄受

二 國際紛争ノ平和的処理ニ關スルジュネーヴ議定書關係

二二 二三

別電

九月六日連盟総会代表幣原外務大臣宛電報第一
六号

軍備制限問題ニ關スル英仏提案ノ決議案採択

ノ件

右英仏提案ノ決議案

(九月七日接受)

三日間軍備制限問題ヲ討議シタル末英仏ノ提案ニ係ル別電

二九

第11六号ノ如キ決議ヲ満場一致ナテ通過セラ

(元電)

九月六日連盟総会代表席原外務大臣宛電報第11六号
軍備制限問題ニ関スル英仏提案ノ決議案

第11六号

(九月七日接続)

Assembly decides as follows with view to reconcile divergences opinions expressed and, when agreement reached, to enable International Conference upon Armaments to be summoned by League of Nations earliest possible moment:

- (1) Third Committee is requested to consider material dealing with security and reduction of armaments particularly observations of governments of Draft Treaty of Mutual Assistance prepared in pursuance of Resolution Fourteen of Third Assembly and other plans prepared and presented to Secretary General since publication of Draft Treaty and to examine obligations contained in Covenant in relation to guarantees of security that resort to arbitration, and reduction of

armaments may require.

(2) First Committee is requested (a) to consider in view of possible amendments Articles in Covenant relating to settlement of disputes; (b) to examine within what limits terms of Article 36 Paragraph 2 statute establishing international court might be rendered more precise and thereby facilitate more general acceptance of the Optional Clause.

Zenken

111 国 九月七日 在ジニアム連盟総会代表ニ
席原外務大臣宛 (電報)

相互通援協定案ニ代ル仲裁裁判ノ範囲拡張ノ件

第11八号

(九月八日接続)

英仏首相ノ滞在ヲ機トシ総会ハ日程ヲ変更シ110間軍縮問題ヲ議シタル處「マクドナルド」ノ所論ハ相互援助条約ノ代リリ新時代ノ形勢ニ順応シ仲裁裁判ノ範囲ヲ拡張シ之ニ依リテ軍縮ノ実ヲ擧ケヌスルリアリ「ヒック」^{（省略）}ハ相互援

助條約案ヲ支持シ乍ラ仲裁裁判ハ羅馬會議ニ於テ仏國ノ提議シタル處ナルヲ以テ欣シテ之ニ賛成スト声明セリ然ルニ仲裁裁判ヲ以テ軍縮ノ実ヲ擧ケントセハ常設司法裁判所ノ規定(第)11(十)六条ヲ以テ足ノリトル能ハス國家ノ名譽威儀乃至死活問題等ニ對シテモ相互通援ノ義務ヲ認メサレバ目的ヲ達スル能ハスシテ斯ル応訴義務ハ英、仏初メ何國ト雖俄ニ之ヲ諾スル能ハサルハ明ナル處ナレハ英、仏首相ノ右提議及其賛成ハ場当リ的演説ニ過キスト見ルノ外ナシ

本使等ハ此点ヲ指摘シタル演説案ヲ用意シタルモ折角群集ノ喝采ヲ得ツツアル英、仏首相ニ兎角ノ批評ヲ加フルハ面白カラスト考ヘ形勢ヲ見ツツアリタルニ果然仲裁裁判万能説ノ頗ミトシ得サル理由ハ遺憾ナク希臘代表ニ依リテ説明セラレタリ又英仏首相等ハ前述ノ如ク場当リ演説ヲナシタルモ何等カ具体的決議案ヲ作リ出サントスルニ當リ其屬僚ニ多大ノ迷惑ヲ与ヘタル模様ニテ結局別電^(113文書)ノ如キ不得要領

(御承知ノ如ク前掲規定(第)11(十)六条ノ範囲拡張ト言フ能ハスシテ唯範囲画定トヘ「幅(リ)」ノ案ニアソリ將又軍備會議成ルク至急招集^{（省略）}ニテ文句ヲ決議ハ冒頭ニ掲

111 國際紛争ノ平和的処理ニ関スルジニアム議定書関係

111

在ジニアム大平少将ヨリ
武藤參謀次長宛 (電報)

英仏間協定動議ノ要報告ノ件

第1111号

(九月九日接受)

第五回國際連盟総会ニ於テ國ノ安全及武備制限ニ關スル討議中予テ相互保証條約案ニ就テ英仏間ニ意見ノ相違セルヨリ英仏両首相ノ宣言中令般主義ニ於テ縣隔ナリシコト前電

111

ノ如クナリシカ両国代表間ニ種々協定ヲ遂ケ昨六日次ノ要旨ノ英仏協定動議ヲ總会ニ提出シ満場一致之ヲ可決セリ動議ノ要旨ハ既ニ各國ノ宣言ニ於テ平和確立ニ関シ協調ノ態度明カトナレルヲ以テ茲ニ連盟ノ各専門委員ヲシテ各國ノ主張ト國ノ相互保証案及仲裁裁判ニ関スル事項等ヲ審査セシメ其ノ一致点ヲ得ルヤ成ル可ク速カニ連盟ノ斡旋ニ依リ武備制限ニ関スル國際會議ヲ開催セントスルニ在リ從テ今後右會議ノ開催ト否トハ連盟委員会ノ経過ニ依リ定マルモノト觀察ス

二六 九月九日 在ジユネーヴ連盟總会代表ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

一切ノ國際紛争ニ對シ義務的仲裁裁判確立ノ

英國側主張及び我方針訓示方請訓ノ件

第三一号

（九月十日接受）

往電第二八号ニ関シ

一切ノ國際紛争ノ事件ニ對スル義務的仲裁裁判ノ確立ニ関シ各國ノ安全ヲ確保シテ軍縮ノ実現ニ資セントスル英國側ノ主張ハ該裁判ニ付セラルヘキ事項力单ニ常設國際司法裁判所規定（第）三（十）六条（第）二項ノ範囲ニ止マルニ

会ハ小委員会ヲ設置シ討議ヲ開始シタル旨報
告ノ件

第三三号

（九月十日接受）

第一委員会ハ九日ノ會議ニ於テ義務的一般仲裁裁判制度ノ確立問題ニ關シ十二人ヨリ成ル小委員会（日本ヲ含ム）ヲ設ケ討論ヲ開始シタルニ付往電第三一号ニ關シ大至急御回訓相成度シ

二八 九月十二日 在ジユネーヴ連盟總会代表ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

小委員会ハ法律問題ニ關シテハ應訴義務ヲ認

ムル次第ニ至急回訓方要請ノ件

第三八号

（九月十三日接受）

義務的一般仲裁裁判制度確立ニ關スル小委員会ハ事件ノ重大ナルニ顧ミ更ニ和蘭及羅馬尼ノ代表ヲ加ヘ安達大使ヲ議長トシテ十二日朝討論ヲ開始シタルカ爾後毎日之ヲ続行スベク各國代表孰モ少クモ法律的問題ニ關シテハ應訴義務ヲ認ムルコトニ異議ナキ次第ナルヲ以テ往電第三一号及第三二号ニ關シ至急御回電相成リタシ

於テハ到底所期ノ目的ヲ達シ得ヘキニアラス而シテ他ノ諸國力擧ヶテ此際連盟規約ニ根本的修正ヲ加ヘテ迄モ英國側ノ主張ニ迎合スヘキヤ頗ル疑アルヲ以テ結局總会ハ先ツ前記第二項ノ内容ヲ審査シ之ヲ明確ナラシメタル上各國ニ応訴義務ノ受諾ヲ求ムルニ止ムヘント察セラル然ルニ各國代表トノ私語ニ依レハ會議一般ノ空氣ハ少クトモ純然タル法律問題ニ付テハ大国小國ノ別ナク各國ヲシテ洩ナク応訴義務ヲ受諾セシメントスルニアルコト明カナレハ濫リニ之ニ反対シテ計ラサル誤解ヲ招クコト面白カラスト存セラルニ付寧ロ大勢ニ順応スルコト然ルヘント認メラル會議ニ於ケル我代表ノ意見ハ直ニ政府ヲ拘束スルモノニアラス又會議ノ決定ハ追テ各國政府ニ回付セラル其採択ニ付セラルヘク夫迄ニハ尚幾多ノ曲折ヲ経ヘシトハ存セラルモ第一及第三委員会議事進行ノ模様ヨリ察スレハ今日中ニモ我意見ヲ發表セサルヲ得サルヘキニ付當方心得迄ニ右ニ關シ大体ノ御方針ナリトモ折返シ御訓示ヲ請フ

二七 九月九日 在ジユネーヴ連盟總会代表ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

義務的仲裁裁判制度確立ニ關シ總會第一委員

貴電第三一号ニ關シ

日本政府ハ從來他國ト仲裁裁判條約ヲ締結スル場合ニ於テ純然タル法律問題ニシテ國家ノ名譽、独立又ハ繫切ナル利益ニ關セサルモノニ限り仲裁裁判ニ付スルコトソシ且各事件ニ付先ツ仲裁契約ヲ締結スルノ方針ヲ採リ居リ現ニ國際連盟規約第十三条モ此ノ趣旨ヲ認メ居レリ

右我方針ハ御承知ノ通リ我方ニ於テ義務的仲裁裁判ニ關シ同意ヲ困難トスル事由アルニ基クモノニシテ今日ニ於テモ從来ノ態度ヲ変更スヘキ事態ノ変化アルコトヲ認メ得サル次第ナリ從ツテ若シ國際連盟ニ於テ此等我方ニ取り困難トスル諸点ニ付円満ナル解決方法ヲ講スルコトヲ併セテ審議ヲ為スコトトナラハ本問題ニ付今後國際連盟ニ於テ審議ヲ進ムルコトニ付テハ何等贅意ヲ吝ムモノニ非ス

貴官ハ此ノ趣旨ニテ措置セラレ度シ

二一 応訴義務ニ関スル小委員会ノ審議狀況報告及
在ジュネーヴ連盟總会代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

三〇 九月十五日 連盟規約第十五条第七項ノ場合紛争ヲ仲裁裁

判ニ付ス可キ旨ノ議定書作成ヲ仏國代表提議
ノ件

第四三号 (九月十六日接受)

往電第三一号ニ閲シ

(一)十三日仏國代表ヨリ規約第十五条第七項ノ場合紛擾ヲ仲裁裁判ニ付ス可キ旨議定書ノ作製ニ依リ実行シタキ旨提議シ各員之ニ和シタルカ伊國代表モ亦來訪同國モ大勢上已ヲ得ス之ニ反対セサル事ニ内定セル旨内話セリ(二)尚仏國代表カ新聞記者ニ語リ且我方ノ探知シタル所ニ依レハ同國ハ総テ政治問題即チ國家ノ独立、名譽及重大ナル利益ニ関スル一切ノ紛擾ヲ仲裁裁判ニ付ス可キ旨ノ提議ヲ為ス心組ナリト(三)更ニ和蘭側ヨリ第十三条一項ノ“*à leur avis*”及二項ノ“*généralement*”削除説提議アリタリ

在歐米各大使、蘭へ暗送セリ

三一 九月十五日 在ジュネーヴ連盟總会代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

三一 応訴義務ニ関スル小委員会ノ審議狀況報告及
ビ主義上之ヲ是認スル様具申ノ件
(九月十六日接受)

第四四号 貴電第三五号ニ閲シ

往電第三八号ノ小委員会ハ其後全然筆記ヲ廃シ秘密会ニ於テ小國側ノ代表者ハ此際大國ヲシテ一擧ニ応訴義務ヲ認メシメント焦リ仏國飽ク迄之ニ共鳴シテ其成功ニ努メ之ニ對シ英、伊両國ハ原則上國際司法裁判所規定(第)三(十)六条(第二)二項ノ応訴義務ヲ認ムルモ議定書ノ留保ニ依リ(イ)条約ノ解釈又ハ(ロ)國際法上ノ問題ニ付伊ハ大体政治條約又英ハ「ブリーズマリチーム」除外ノ目的ヲ達セント試ミツツアルモ未タ右留保ノ事項ニ付確乎タル「フォームラ」ヲ発見セス右様ノ次第ナルニ付日本政府ノ最後ノ態度ハ別トシテ當方ニ於テハ一足跳ノ改革ニ賛成セサルハ勿論ナルモ此際絶對的反対ノ態度ヲ棄テ或程度迄主義トシテ応訴義務ノ精神ヲ是認スルニ傾ク方無用ノ誤解ヲ避クル為ニモ適當ト認メラル尤モ司法裁判所規定ノ非締約国及該締約国中応訴義務ヲ認メサルモノト結ヒタル條約留保ノ方針ヲ取ルニ於テハ例へハ華府會議関係ノ各条約ノ如キ我方ニトリ國

家ノ名譽、独立等ニ関スル主ナルモノハ之ヲ除外シ得ヘク而シテ更ニ万全ノ策トシテ英、伊ノ留保ハ我ニ於テモ之ヲ留保スル旨ヲ声明セハ問題ノ範囲ハ著シク局限セラルヘキヲ以テ強ヒテ我方ノ意見ヲ求メラル時ハ私見トシテ少ク共右程度ノ留保希望ノ旨開陳ノ心組ナリ

在歐米各大使へ暗送セリ

貴電第三七号ニ閲シ

三二 九月十六日 在ジュネーヴ連盟總会代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

三二 九月十七日 在ジュネーヴ連盟總会代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

法律問題ニ関スル応訴義務及ビ同問題以外ノ

紛争解決ニツイテノ各國ノ所論報告ノ件

第四七号 (九月十八日接受)

キハ此等ヲモ要領電報アリ度シ

三三 九月十七日 在ジュネーヴ連盟總会代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

一、法律問題ニ關シ応訴義務ヲ認ムル場合往電第四四号ノ通り法律問題ノ範囲ニ付仏國ハ國際司法裁判所規定第三十六条第二項ニ制限ヲ付セサルモ英國及伊國(伊國ハ前往電第四号以後態度ヲ変更シ第三六条第二項(イ)ニ付応訴義務ヲ認ムヘキ条約ヲ制限的ニ列挙スルノ意見ナル由)ハ其必要ト認ムル制限ヲ付シ法律問題ノ範囲ヲ限定セントスルモノ如シ此際大國ハ相當ノ留保ヲ付シテナリトモ応訴義務ヲ承認スルニ至ラハ大進歩ナリト私話セルモノアリ

二、法律問題以外ノ紛争解決ニ付テハ往電第四三号ヲ以テ申進メタルカ仏國及伯刺西爾ハ其後小委員会ニ対シ左ノ趣旨ノ提案ヲナシタルカ伊國案ハ法律問題以外ノ紛争ヲモ総テ平和的手段ニ依リテ解決シ戰争ヲナカラシメントノ趣旨ニ論述セリトノコトナル處我國ノ立場ニ關係アルモノナルト

三一 国際紛争ノ平和的處理ニ關スルジュネーヴ議定書關係

三二 三三

三五

テ規約ノ規定ヲ補充セントシ(イ)第一二条第一項末段 Until

以下 Council 迄ヲ削除スルコト(ロ)第一五条第六項ニ理事会

ノ勧告ニ從ハサル國ニ對シ第一六条ヲ適用スルコトヲ明瞭

ニスルコト(ハ)第一五条第七項ノ場合理事会ハ三名ノ専門委

員ニ諮詢シタル上成ルヘク全会一致ノ勧告ヲナスニ努メ若

シ成功セサル時ハ係争問題ヲ五人ヨリ成ル仲裁裁判所ノ判

定ニ付スルコト（伯刺西爾案ハ専門委員ヲ経ス直ニ仲裁裁

判ニ付スルコトトセリ）等ヲ提議シタルカ右ハ連盟各國代

表者ノ署名スヘキ議定書ノ形式ヲ以テ実施セントスル意向

ナルニ（脱）尙前記貴電後段第一五条第八項ニ関スル仏國

案ハ理事会ノ報告ニ服セサルモノヲ以テ侵略者ト見做シ之

ニ第一六条ノ制裁ヲ加ヘントスルニアリ以上ノ提議ハ單ニ

討議ノ基礎タルニ過ギス今後幾多ノ変更ヲ見ルコト申ス迄

モナン

三四 九月十八日 潘原外務大臣ヨリ
在ジユネーヴ連盟総会代表宛（電報）

仲裁裁判ニ關スル判断ノ材料乏シキニツキ本
問題ニ關スル情報ハ隨時詳細報告方訓令ノ件

第四〇号

貴電第四四号ニ關シ
強制仲裁條約ノ問題ハ大體貴見ノ通り

政治條約ヲ除外スルハ勿論其他除外ノ範囲ハ成ルヘク広ク

スルノ趣旨ヲ以テ貴官限リ適宜御處理相成差支ナキモ政府

第四四号

三五 九月十九日 潘原外務大臣ヨリ
在ジユネーヴ連盟総会代表宛（電報）

強制仲裁條約問題ニ關シ回訓ノ件

第四四号

貴電第四四号ニ關シ

強制仲裁條約ノ問題ハ大體貴見ノ通り

ハ第一委員会ノ仲裁ニ關スル審査ノ終了ヲ見タル上ニテ討

議ヲ開始スヘキモノトシテ未タ之ニ手ヲ着ケス前記一応決

定シタル四ヶ条ハ議長及「ブランチング」（瑞典）「ブル」（白耳義）ノ三人ヨリ成ル起草委員会ニ付セラル

（九月二十日接受）

トシテハ前電ノ如ク從来ノ態度ヲ此際変更スルニ尚慎重ノ
考究ヲ要スルヲ以テ今回ノ約定ニ關スル文書ヲ作成スル際
後日各國共適當ノ留保ヲ付シテ調印シ得ル様規定シ置クコ
トヲ希望ス

三六 九月十九日 在ジユネーヴ連盟総会代表ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

ベネシュ討議基礎案ニ關シ第三委員会第四分
科会ノ審議状況報告ノ件

（九月二十日接受）

三七 九月十九日 在ジユネーヴ連盟総会代表ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

仏・ブラジル両国案ノ共同修正案要旨報告ノ

（九月二十日接受）

第五三号

往電第四七号ニ關シ
シ居レルモ右討議基礎案新聞ニ漏れ該案ハ恰モ英仏同意ノ

モノノ如ク外間ニ看取セラレ居ルヲ遺憾トシ十八日朝書記

局ヨリ右案ハ單ニ討議基礎案ニ過ギサル旨ヲ各新聞社ニ申

送レリ又實際ニ於テ該案ハ十六日ヨリ連日審議ニ付セラレ

居リ今十八日夕迄ニ第一読会トシテ一応決定シタル個条ハ

別電第五〇号ノ通詳細ニ關シ Art 7, Art 7(a), Article 8,

往電第三七号ニ關シ

今回ノ総会ニ於ケル仲裁裁判問題ハ将来ノ國際關係ノ根本
ニモ触ル重大問題ナルニ拘ラス當方ニテハ之ニ關スル判

斷ノ材料ニ乏シキニ苦ミ居ル有様ナリ十六日貴地発「ル
ター」電報ハ本件ニ關シ英仏間ニテ既ニ大体合意成立シ成

案トナル見込アル制裁ニ關スル議定書ノ大略ノ内容ヲ報道

シ居レリ察スルニ右議定書ニ關スル會議内外ニ於ケル審議

ハ可ナリ進ミ居ル模様トモ認メラル本問題ニ對スル情報特

ニ本問題ト連盟外ノ諸國トノ関係ニ付主ナル關係諸國ニ於
テ何カ考量セラレ居ルヤ又本問題ト軍縮問題トノ關係等御

観測ト共ニ詳細其都度電報アリ度シ

（九月二十日接受）

三六 九月十九日 在ジユネーヴ連盟総会代表ヨリ
幣原外務大臣ヨリ

強制仲裁條約問題ニ關シ回訓ノ件

第四四号

貴電第四四号ニ關シ
強制仲裁條約ノ問題ハ大體貴見ノ通り

ハ第一委員会ノ仲裁ニ關スル審査ノ終了ヲ見タル上ニテ討

議ヲ開始スヘキモノトシテ未タ之ニ手ヲ着ケス前記一応決

定シタル四ヶ条ハ議長及「ブランチング」（瑞典）「ブル」（白耳義）ノ三人ヨリ成ル起草委員会ニ付セラル

（九月二十日接受）

三七 九月十九日 在ジユネーヴ連盟総会代表ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

仏・ブラジル両国案ノ共同修正案要旨報告ノ

（九月二十日接受）

第五三号

往電第四七号ニ關シ
シ居レルモ右討議基礎案新聞ニ漏れ該案ハ恰モ英仏同意ノ

モノノ如ク外間ニ看取セラレ居ルヲ遺憾トシ十八日朝書記

局ヨリ右案ハ單ニ討議基礎案ニ過ギサル旨ヲ各新聞社ニ申

送レリ又實際ニ於テ該案ハ十六日ヨリ連日審議ニ付セラレ

居リ今十八日夕迄ニ第一読会トシテ一応決定シタル個条ハ

別電第五〇号ノ通詳細ニ關シ Art 7, Art 7(a), Article 8,

二 國際紛争ノ平和的處理ニ關スルジユネーヴ議定書関係 三六 三七

第二条、署名國ハ規約第一五条第四項、第五項及第七項適用ノ為左ノ手続ヲ執ルヘシ

理事会ニ付議セラレタル紛争カ第一五条第三項ニ依リ解決セラレサル時ハ之ヲ仲裁委員会ニ付議ス右仲裁委員会ハ法律的決定ヲ与ヘ又事件ノ性質カ之ヲ許ササル時ハ和解ヲ為スモノトス本委員会ヲ構成スルカ為ニハ一方当事国ノ請求アルヲ以テ足ル理事会ハ各当事国ニ対シ十五日以内ニ各一名ノ委員ヲ選定セシム両当事国ハ右期間經過後十五日以内ニ合意ヲ以テ更ニ他ノ三名ノ委員ヲ選定スヘク委員会ノ議長ハ右三名ノ中ヨリ之ヲ選フモノトス

当事国カ委員ヲ選定セス又ハ右選定ニ關シ合意ヲ得サルトキハ理事会ハ前記第二ノ期間經過後國際司法裁判所カ開廷セラレ居ルトキハ之ニ又然ラサルトキハ同裁判所簡易部ヲシテ右委員ヲ選定セシムヘシ仲裁委員ノ任命ニ当リテハ司法裁判所ハ当事国ノ提出スヘキ一切ノ申出テヲ斟酌スルコレト得關係当事国カ多數ニシテ共同ノ問題ニ關スルモノナルトキハ右仲裁委員ノ選定ニ付テハ之ヲ一当事国ト見做ス此点ニ關シ疑ヒアルトキハ司法裁判所又ハ簡易部之ヲ決定ス紛争当事国ノ一方ニ於テ紛争カ國際法上專ラ該当事国ノ

本議定書所定ノ条件ヲ約束シタル連盟國ト其他ノ國トノ間ニ紛争ヲ生シ規約第一七条ヲ適用スルニ當リテハ理事会ハ

同条ニ規定スル条件中ニハ本議定書ノ規定スル紛争ノ平和的解決方法ヲ含ムモノト解スヘン勸誘ヲ受ケタル國之カ受諾ヲ拒ミタル時ハ本議定書ノ署名國ハ該國ニ対シ違約國（本議定書加入國ニシテ而モ之ニ從ハサル國）タル連盟國ニ對スルト同様ノ行動ニ出スルコトヲ約ス

二、前記両國共同案ニ關シテハ議論多ク從テ其細目ニハ変更ヲ加ヘサルヘキモ提案ノ要点ハ理事会カ第一五条第七項ニ規定スル全会一致ノ解決ヲ得サル場合ニ仲裁裁判又ハ和解委員ニ紛争ヲ付託スヘキコト並第一六条第二項ノ外戦争ヲナササルコトヲ約スルニアリ而シテ前記三個条又ハ修正条項ヲ以テ議定書ヲ作製シ加入國ノ署名ヲ求メントスルハ併其他小國委員ノ提案ニシテ英國委員賛シ伊國委員反対セス而シテ細目ノ審議ニ入り本邦委員反対ヲ表明シ初ムルヤ全員ノ最モ激烈ナル反駁ニ会ヒタリ

第五四号

第一及第三委員会ニ亘ル仲裁安全及軍備ノ連合問題ニ關シ仏國ノ突飛ナル「プロトコール」案ハ左程ノ勢力ナキモノト見ラレ居タルニ仏國側ノ日夜ノ狂奔ニ依リ次第ニ勢力ヲ増シ智恵古、和蘭等当初ヨリノ賛成者ノ外穩和論者ノ切レ者ト目セラレ居タル希臘ノ「ポリチス」カ一変シテ仏國案賛成ニ移リタルヲ初メ小國側一般之ニ傾キ終ニ当ルヘカラサル勢力ヲナスニ至レルハ案外ナル現象トス安達カ主宰スル第一委員会分科会ニ於テ英、伊及日ハ既報ノ如ク常ニ穩健説ヲ維持シ來リタルモ伊ハ漸次大勢順応ノ態度ニ移リ英モ昨十八日ニ至リ「プロトコール」案ヲ賛成スルヤ否ヤノ手詰ノ質問ヲ向ケラレ終ニ之ニ賛成スト言明スルニ至レリ初メ石井ハ英國ノ首席タル「ペーモー」卿ヨリ英國ハ「プロトコール」案ニ反対ニシテ總会ハ來ル軍縮會議ノ議題トナルヘキ材料ニ付議論ヲ纏メ之ニ対シ各國政府ノ賛成ヲ求ムル決議案ヲ作製スルノ意向ナリト聞キ又伊ノ首席

三八 九月二十日 在ジュネーヴ連盟總會代表ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

二 國際紛争ノ平和的處理ニ關スルジュネーヴ議定書關係

三八

管轄ニ屬スル事項ヲ生シタルモノナル事ヲ主張シ委員会之ヲ是認シタルトキハ單ニ之ヲ確認スルニ止メ紛争ノ件案ニ付審議ヲ為ササルモノトス一切ノ場合ニ於テ仲裁委員会ノ決定ハ執行力アルモノトス孰レノ当事国モ理事会ニ對シ紛争ヲ除キ理事会ニ付スルコトヲ請求セサルトキハ理事会ハ再ヒ事件ノ審査ヲ為スヘシ理事会ニ於テ紛争当事国ノ代表者ヲ除キ理事會員全部ノ同意ヲ得タルトキハ理事会ハ紛争ノ事情及理事会カ最モ公平ニシテ最モ適當ナルモノトシテ勧告スル解決ヲ知ラシムル為報告書ヲ公表スヘン右勧告ハ執行力アルモノトス

理事会ニ於テ紛争当事国ノ代表者ヲ除キタル連盟理事會員全部ノ同意ヲ得ルニ至ラサル時ハ右ノ同意ヲ得サリシ点ヲ三人ヨリ成ル和解委員会 arbitres amiables compositeursニ付託ス右和解委員ハ理事会自ラ多數決ヲ以テ理事会員以外ノモノヨリ之ヲ選定ス右和解委員会ノ決定ハ理事会ノ全会一致ノ決定トシテ執行セラレ第一五条第九項及末項ニ依リ紛争カ總會ニ移サレタル場合ニ於テモ同一ノ規則ヲ適用ス

第三条

「サランドラ」氏ヨリモ同様ノ意向ヲ承知シ安達、松田カ第一及第三委員会ニ於テ実見スル処モ英、伊ノ態度叙上ノ通リナリシ故本使等ハ大体ニ於テ甚タシキ心配ハナカラん

三九

カト考ヘ居リタリ次テ仏國側ノ宣伝ニ出スルモノカ英、仏妥協ナレリトノ評判伝ハリシモ會議ノ席上ニ於テハ幾分語調ノ緩和ヲ見タルモ英、伊ノ態度ハ依然タルモノアリシカ昨日ニ至リ終ニ叙上ノ發展ヲ見タル次第ナリ十八日夜石井カ伊ノ「サ」ニ愈々何處迄モ讓ル積リナリヤト問ヒタルニ「サ」ハ昨年ノ「コルフ」事件以来伊国ハ風当リ強クシテ今年ノ總会ニ於テモ一言一句直ニ小国側ノ反対ヲ受ケ迷惑千万ナリト答ヘタル処ヨリ見レハ伊ハ泣寝入リニ終ルモノト見ルノ外ナク又英ノ「パ」ハ石井ヨリ同様ノ問ヒニ対シ吾人ハ總会ニ於テ「プロトコール」ニ調印スルヲ得ス唯「プロトコール」ヲ付箋シタル一ノ決議案ヲ決シ之ヲ各國政府ニ廻付シ「プロトコール」ニ調印スルト否トハ各國政ニ委スヘシト言ヒ去ル十三日彼カ石井ニ語ル処ト著シキ変調ヲ示シ「プロトコール」案ヲ總会ニ於テ決議スルコトニハ賛成スルノ態度ヲ暴露セリ茲ニ於テ英、伊迄ヲ含ミタル總会ノ大多数ハ規約改正ヲ手緩シトシ規約ノ根本改正ニ亘ル重大事項ヲ「プロトコール」ニ依リテ一氣呵成ニ実行スルノ態度ハ殆ト明瞭トナレリ

事茲ニ至リテハ本使等ノ態度ハ(一)大勢順応(二)孤立反対(三)

ナルヘキモ夫ハ文体ヲ吟味シタル上ナラテハ断定シ難シ以上ノ狀況篤ト御明察ノ上折返シ何分ノ御訓電ヲ請フ

三九 九月二十日 在ジュネーヴ連盟總会代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

起草委員会ニ於テ仏國・ブラジル案及ビ英國 案ヲ一共同案トシテ作成ノ件

第五五号

往電第五三号ニ閲シ

本日小委員会カ仏國伯刺西爾案第二条ノ討議ニ入りタルニ英國委員ハ三個条ヨリ成ル「プロトコール」案ヲ提出シタリ右英國案第二条ト仏國伯刺西爾案第二条トハ類似ノ内容ヲ有スルヲ以テ直ニ之ヲ英、伊、仏、白、伯刺西爾、希臘ノ各委員ヨリ成ル起草委員会ニ付託シ一ノ共同案ヲ作製シ之ヲ基礎トシテ討議ヲナスコトトナシ次テ英、仏、伊間ニ協定ヲ見タル結果起草委員会ハ主義上左ノ点ニ付一致シタル旨報告セリ

一、理事会カ紛争ノ解決ヲナシ得サル場合紛争当事国ノ一

方カ請求シタル時ハ事件ハ当然仲裁裁判ニ付セラル紛争

当事国ノ一方ニ於テ事件カ法律的性質ノモノナルコトヲ

二 國際紛争ノ平和的處理ニ関スルジュネーヴ議定書關係

三九

四〇

「アブステンション」ノ何レカニアル処既ニ接到セル御電訓ニ依ルモ又本使等ノ確信ヨリスルモ「プロトコール」ヲ以テ規約ニ根本的改正ヲナスカ如キ突飛ナル案ニハ如何ニ

時勢トハ言ヘ到底賛成ヲ表シ得ス又孤立ヲ顧ス大勢ニ反抗スルトセハ全会一致ヲ要スル規約ノ規定ニ依リ「プロトコール」案ヲ流産セシメ得ルハ勿論ナレ共斯テハ日本独リ時代ノ進歩ヲ障害スルモノナリトノ宣伝ヲ引受クヘク右ハ此際日本ノ堪ユル処ニアラサルヘク結局本使等ハ遠隔ナル本国政府ト電話又ハ特使等ノ便ナキハ勿論通信上多大ノ不便アル地位ニ在ル結果本国政府ノ完全ナル訓令ヲ入手シ得ナル名義ノ下ニ遼ニ本案ニ賛成スルヲ得スト言明シ次テ日本政府ハ其代表ノ一票ニ依リテ規約ノ規定上本案ニ賛成ナル諸國ノ「プロトコール」調印ヲ妨害スルヲ欲セサルハ勿論ナレハ日本代表ハ将来ニ於ケル本国政府ノ完全ナル自由ヲ留保シテ茲ニ賛否ヲ表セスト声明スルヲ最モ適宜ノ策ト思考ス尤モ決議ノ文体如何ニ依リテハ本国政府ノ完全ナル自由ヲ留保シツツ決議案ニ賛成ヲ表シ得ルノ場合ナシトモ限ラススル場合ニハ前述ノ如キ地理上ノ理由ヲ説明シ完全ナル自由ヲ留保スルト同時ニ決議案ニ賛成スルコト更ニ得策

別電 九月二十二日 在ジュネーヴ連盟總会代表ヨリ

右議定書案

(九月二十三日接受)

仲裁裁判安全保障及軍縮問題ニ関シ二十一日第一及第三委員會

六一號

四一

員会ノ混合起草委員会ニ於テ別電第六二号ノ通り十四個条ヨリ成ル「プロトコール」同付属条項及総会ニ提出スヘキ付属決議案ヲ作製前記両委員会分科会ニ於テ直ニ其審議ヲ開始セリ右ハ未タ草案ニ過キス從テ今後幾多修正ヲ加ヘラルヘキモ不取敢

(別電)

九月二十二日連盟総会代表堀原外務大臣宛電報第六二号
第一、第三委員会混合起草委員会ニ於テ作成セル議定書案

第六二号

(九月二十三日接受)

議定書前文 世界恒久ノ平和ヲ確保シ且存在自由又ハ領土ヲ脅カサル人民ノ安全ヲ期セントラ思ヒ国家間ニ起ルコトアルヘキ紛争ノ平和的解決ノ為規約ノ定メタル制度ノ完全ナル適用ト國際的犯罪ノ抑圧トヲ容易ナラシメンコトヲ希望シ依テ國際連盟規約第八条ノ定ムル軍備ノ縮小及制限ヲ実現スルニ決シ正当ノ委任ヲ受ケタル下名ニ依リ代表セラレタル國ハ左ノ諸条ヲ協定セリ

第一条、下名ハ規約第十二条第一項末段ヲ削除シ同条ノ冒頭ニ左ノ条項ヲ挿入シ以テ同条ノ改正ヲ計ランコトヲ約ス
(連盟國ハ侵略行為ニ対シ抗拒スルトキ又ハ連盟理事会若

委員会ハ理事会ヲ介シ当事國ノ指摘シタル法律上ノ点ニ付常設國際司法裁判所ノ意見ヲ求ムヘシ此場合該裁判所ハ至急參集スヘシ
三、若シ何レノ当事國モ仲裁ヲ請求セサルトキハ理事会ハ更ニ紛争ノ審査ヲ開始スヘシ理事会カ紛争当事國ノ代表者ヲ除キ全員一致ノ票決シタル報告ヲ作成シ得タルトキハ連盟各國ハ理事会ノ勧告シタル解決ヲ受諾スルコトヲ約ス
四、理事会カ一切ノ紛争当事國ノ代表者ヲ除ク他ノ全員ニ依リ承認セラレタル報告ヲ作成スルコト能ハサルトキハ理事会ハ該紛争ヲ仲裁裁判ニ付スヘシ理事会ハ自ラ仲裁委員会ノ構成権限及手続ヲ決定スヘシ
五、如何ナル場合ニ於テ理事会カ既ニ全会一致ヲ以テ勧告ヲ為シタル解決方法ハ再ヒ之ヲ争フコトヲ得ス
六、連盟各國ハ誠実ニ仲裁裁判決ヲ履行スヘク且前記ノ如ク理事会ノ勧告シタル解決方法ニ從フ可キコトヲ約ス
七、右ノ約定ニ從ハサル国アルトキハ理事会ハ其履行ヲ期スル為其一切ノ權力ヲ用フヘシ若シ効ヲ奏セサルトキハ規約第十三条末段ニ規定セラレタルカ如ク其ノ履行ヲ期スル為必要ナル措置ヲ提議スヘシ第十六条ノ定ムル制裁ハ本議

二 國際紛争ノ平和的處理ニ關スルジユネーヴ議定書關係

四〇

定書ニ指示スルカ如ク之ヲ解釈シ前記約定ヲ無視シテ戰爭ニ訴ヘタル國ニ對シ直ニ課セラルヘシ
第三条、第二条ノ規定ハ連盟理事会又ハ連盟総会ノ決定ニ従ヒ一若ハ多數ノ署名國ニ依リナサレタル戰爭行為ノ結果生スヘキ紛争ノ解決ニハ之ヲ適用セス
第四条、若シ前記第二条ノ定ムル仲裁手続中当事國ノ一方カ該紛争ノ全部又ハ一部カ國際法上專ラ該当事國ノ管轄ニ屬スル事項ニ付生シタルモノナルコトヲ主張スル時ハ仲裁者ハ此点ニ付理事会ヲ介シ國際司法裁判所ノ意見ヲ求ムヘシ若シ該裁判所カ右ハ前記ノ如キ問題ニ係ルモノナルコトヲ回答シタル時ハ仲裁者ハ其判決中ニ於テ其旨ヲ確認スルニ止ムヘシ

侵略者ノ定義第五条、本議定書ニ署名シタル一切ノ連盟國ニシテ左記ノモノハ之ヲ侵略國トシ理事会ハ之ヲ確認スルノ義務ヲ負フ
一、戰爭ニ訴ヘ又ハ第一条ノ約定ヲ破りタルモノ例ヘハ紛争ヲ規約第一三条及第一五条ノ定メ本議定書ノ確保セル平和的解決ノ手続ニ付託スルコトヲ拒ミ又ハ司法的若クハ仲裁の解決ニ或ハ前記各条及本議定書ノ定ムル理事会一致ノ勧告ニ從フコトヲ拒ミタル時ニ、陸、海、空

軍ノ一切ノ行動ヲ停止セシムル目的ヲ以テシタル理事会ノ決定ニ反シ戰爭行為ヲナシタルモノ三、後ニ掲クル第……条ノ定ムル如ク理事会カ手続期間中仮ニ定メタル措置ニ反シ戰爭行為ヲナシタルモノ

軍備撤廃地域ニ關スル規則ヲ犯スコトハ之ヲ戰爭行為ト見做ス理事会カ侵略國ノ確認ヲナスヤ直ニ連盟國ニ於テ本議定書第……条ノ定ムル制裁ヲ遲滯ナク課スルノ義務ヲ生ス

ルモノトス第……条署名國ハ規約第一七条ノ定ムル非連盟國ト本議定書署名國トノ間ニ紛争ヲ生シタル時ハ同条ノ定ムル条件ニ從ヒ該紛争ヲ平和的ニ解決スル為本議定書署名國ノ承認シタル条件ニ從ハソコトヲ必要ノ場合右非連盟國ニ勧誘スヘキコトヲ約ス規約第一七条ノ規定ハ本議定書カ同条ニ加ヘル变更ニ從ヒ右条件ヲ以テ適用セラルヘシ第三条下名ハ前記規約改正案記載ノ条項ハ本議定書施行ノ為

メ後ニ定メラルヘキ期日ニ其相互ノ關係ニ於テ義務的トナルモノナルコト並理事会ハ署名國ニ対シ右期日以後前記改正提案ニ依リ与ヘラレタル一切ノ權利及義務ヲ行フヘキ権能ヲ付与セラルモノナルコトヲ約ス

第六条軍備撤廃区域ノ存在ハ侵略ヲ防止シ又ハ第五条ノ定

ムル公然且明白ナル侵略ノ確認ヲ容易ナラシムヘキ性質ノモノナルニ依リ本議定書ノ違反防止ノ方法トシテ之カ設置ニ付等シク同意アル國ノ間ニ其設置ヲ勧告ス條約若クハ協約ニ依リ既ニ存在シ又ハ等シク同意スル國ノ間ニ今後設置セシムヘキ軍備撤廃区域接壤國ノ一又ハ全部ノ請求ニ依リ且其費用ニ於テ理事会ノナス一時の若クハ継続的監督ヲ受クルコトヲ得

第七条、第七条ノ二、第八条及第八条ノ二ノ四個条ハ往電第五〇号ト殆ト全ク同様ナリ唯第七条ノ二第二項中『事項ヲ決定スヘシ』ヲ『決定シ之ヲ連盟國及他ノ署名國ニ通告スヘシ』ト訂正セリ

第九条ハ往電第五七号ノ通リナリ尤モ會議取消ノ条件タル批准國（常任理事國及其他ノ連盟國）ノ數ニ付テハ未タ決定ニ至ラス

第一〇条、本議定書ノ解釈ニ關スル一切ノ紛争ハ國際司法裁判所ニ付託セラルヘク本議定書ノ実行ニ關スル他ノ一切ノ紛争ハ國際連盟理事会ニ付託スヘシ

付属条項、本議定書ハ連盟規約ヨリ生スル義務ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ

総会ニ提出スヘキ付属決議、理事会ハ本議定書ニ予見セラレタル規約ノ改正ヲ起草スル為一小専門委員会ヲ組織スルコトヲ勧告セラル

四一 九月二十一日 在ジユネーヴ連盟總会代表宛（電報）

幣原外務大臣ヨリ

會議ニ於テ敷衍陳述スベキ諸点訓令ノ件

第四七号

貴電第五四号ニ關シ形勢貴電ノ通トセハ此際ハ貴電末段ノ通御措置アリ度シ

我方ノ立場ハ屢次ノ往電ニ依リ御存シノ通ナルカ尚左記ノ取捨ノ上敷衍陳述シ置カレ度シ

一、往電第四四号ノ通從来ノ主義ト余リニ懸離レ國家ノ独立、名譽又緊切ナル利益ニ關スルカ如キ問題ヲモ義務的仲裁裁判ニ付セムトスルニ拘ハラス規約第十五条第八項ノ如キ各國ニ於テ國內問題ト認メタルモノハ之ヲ仲裁ニ付議セストノ規定ヲ存スルハ趣旨徹底セサルモノト認ム

二、元來本議定書ハ将来ノ軍備縮小、國際間ノ平和安全ノ保障ヲ目的トル處斯ル終局ノ目的ヲ達セムトセハ世界

列強ノ主ナルモノ特ニ米、独、露等ノ諸國カ当初ヨリ之ニ参加スルコトヲ必要トス思考ス

四二 九月二十三日 在ジユネーヴ連盟總会代表ヨリ

幣原外務大臣宛（電報）

第一委員会分科会ハ議定書案ヲ審議ノ結果議定書条文仮案トシ同委員会ニ報告ノ件

別電 九月二十四日連盟總会代表発幣原外務大臣宛電報
第六五号

第一委員会分科会ハ往電第六二号ヲ基礎トシテ討議ヲ繼續シ其結果議定書条文仮案トシテ二十三日別電第六五号ノ通り第一委員会ニ報告スルコトトナリタリ

右分科会ノ討議及第一委員会ニ對スル報告ノ當初ニ於テ安達ハ未タ帝國政府ノ訓令ニ接セス詳細研究ヲ必要トスルノ理由ヲ以テ本問題ノ全部ニ對シ帝國政府ノ留保ヲ聲明シ置キタルカ分科会ニ於ケル討議ハ英仏伊三国ノ主張ヲ纏ム

ニ存シ前記別電ノ各条項ハ其趣旨ニテ右三国ノ妥協点ヲ示

スモノナリ從テ字句ニ不完全ナル点アルニモ拘ラス政治上ノ理由ニ依リ一先ツ右ノ如ク決定シ第一委員会ニ報告スルニ至レル次第ナリ

(別電)

九月二十四日在ジユーヴ連盟総会代表發幣原外務大臣宛電
報第六五号
第一委員会へ報告ノ議定書条文仮案(和訳文)

前文

國家間ニ生スルコトアルヘキ一切ノ紛争ヲ平和的手段ニ依リテ解決シ以テ世界各国ノ連帶ヲ鞏固ニシ且其ノ安全ヲ増進セシムル為並連盟規約第八条ニ依リ予想セラル國ノ軍備ノ縮小ニシテ國ノ安全及國際義務ヲ協同動作ヲ以テスル強制ニ支障ナキ最低限度迄セラルモノヲ右各國間ニ於テ實現セシムル為

下名ハ之カ為正当ナル委任ヲ受ケ左ノ如ク協定セリ

第一条

署名国ハ下記諸条ニ記載セラルル規定ニ依リ規約ニ修正ヲ加フルコトヲ確保スル為一切ノ努力ヲ為スヘキコトヲ約ス署名国ハ右規定ハ本議定書ノ實施ノ為ニ後ニ定ムルノ期日

ヨリ其ノ相互間又ハ事件ノ起リシ場合ニ於テ後ニ規定セル義務ヲ受諾セル國家ニ對シ如何ナル場合ニ於テモ戰争ヲナサルコトニ同意ス但シ侵略行為ニ抵抗スル場合又ハ規約及本議定書ノ規定ニ從ヒ連盟総会又ハ理事会ノ同意ヲ以テ為シタル行動ハ此ノ限ニ在ラス

第三条

下名ハ常設國際司法裁判所規程第三十六条第二項ニ掲タル事件ニ付該裁判所ノ管轄權力當然適用セラルコトヲ承認スルコトヲ約ス但シ該裁判所規程第三十六条ニ定メラレ且一九二〇年十二月十六日署名ノ為ニ開カレタル特別議定書ニ合致スル各國ノ留保ヲナスノ権利ヲ常ニ妨ケサルモノトス

一九二〇年十二月十六日署名ノ為ニ開カレタル特別議定書ニ對スル加入ハ本議定書ノ効力發生後一月内ニ之ヲ為スコトヲ要ス

本議定書ノ効力發生後之ニ加入スル國ハ加入後一月内ニ前記ノ義務ヲ履行スルコトヲ要ス

第四条

規約第十五条第四項、第五項、第六項及第七項ノ規定ヲ一層完全ナルモノト為ス目的ヲ以テ下名ハ次ノ手続ニ從フコトニ同意ス

於テ認メタル者ノ中ヨリ当事国ト協議ノ上仲裁委員及其議長ヲ選任スヘシ

(ハ)当事国双方ノ要求ノ形成セラレタル後仲裁委員会ハ当事国ノ請求アルトキ理事会ノ仲介ニ依リ常設國際司法裁判所ニ對シ該紛争ノ法律問題ニ付勧告的意見ヲ求ムルコトヲ得

此ノ場合ニ於テ常設國際司法裁判所ハ緊急事項トシテ會議ヲ開クヘシ

三、当事国双方カ仲裁ヲ依頼セサルトキハ理事会ハ紛争ニ關スル其ノ審査ヲ再開スヘシ理事会ニシテ紛争当事国代表者ヲ除ク一切ノ連盟國ニ依リ全会一致ヲ以テ可決セラレタル報告書作成セラレタルトキハ署名国ハ理事会ノ報告スル解決ヲ受諾スルコトヲ同意ス

四、若シ理事会ニ於テ紛争当事国ヲ除キ他ノ理事会員全部ノ同意アル報告書ヲ得ルニ至ラサルトキハ理事会ハ該紛争ヲ仲裁ニ付スヘシ且理事会ハ自ラ仲裁委員会ノ構成、

權限及手續ヲ決定スヘン

(ロ)若シ理事会ノ定メタル期間内ニ当事国カ仲裁者ノ數、氏名及權限並手續ノ全部又ハ一部ニ関シテ同意ヲ得ルニ至ラサル場合ニ於テハ理事会ハ右未決ノ点ヲ解決スヘク又理事会ハ緊急ノ処置トシテ其国籍、人格及経験上其適任ナルコト及其公平ナルコトノ最モ確実ナリト理事会ニ告ヲ為シタル解決方法ハ再之ヲ争フコトヲ得ス

六、署名國ハ与ヘラレタル仲裁判決ヲ誠実ニ履行シ且前記

三、ニ規定セラル如ク理事会ノ勧告スル解決方法ニ從

フコトヲ同意ス

七、前記ノ約定ノ履行セサルモノアル場合ニハ理事会ハ之カ履行ヲ確保スル為其ノ全力ヲ尽スヘシ若シ其ノ効ナキ

トキハ規約第十三条ノ末ニ掲クル規定ニ従ヒ理事会ハ履行ヲ期スル為必要ナル措置ヲ提議スヘシ上記約定ヲ無視

シテ戰爭ニ訴ヘタル國ニ對シテハ規約第十六条ノ定ムル制裁ハ本議定書ニ指示セラルカ如キ解釈ノ下ニ之ニ即

時適用セラルニ至ル

八、本条ノ規定ハ連盟理事会又ハ連盟總会ノ同意ヲ以テ署名國ノ一又ハ二以上ニ於て行ヒタル戰爭手段ノ結果生ス

ル紛争ノ解決ニ適用セラレサルヘシ

第五条

上記第四条ニ定メタル仲裁裁判ノ手続中ニ於テ当事國ノ一カ紛争又ハ其ノ一部カ國際法上專ラ該当事國ノ國內管轄ニ屬スル事項ニ付生シタルモノナルコトヲ主張スルトキハ仲裁委員ハ此ノ点ニ付連盟理事会ヲ介シ常設國際司法裁判所ノ意見ヲ求ムヘシ

第六条（侵略者ノ決定）

規約ニ掲クル約束ニ違反シテ戰爭ニ訴ヘタル國ハ何レモ侵略者ト認メラルヘシ軍備撤廃地域ニ閑スル規則ノ違反ハ戰爭ニ訴ヘタルト同様ナリト看做サルヘシ敵対行為ノ起リタル場合ニ於テハ（一）何レノ國モ本議定書ニ依リ拡大セラレ規約第十三条及第十五条ニ規定セラルル平和的解決ノ手続ニ紛議ヲ付託スルコト又ハ司法的判決若ハ仲裁審判ヲ無視シタル場合（二）其他ノ交戰國間ノ紛議ハ國際法上他ノ交戰國ノ国内法ノ管轄ニノミ属スル事項ヨリ生シタルコトヲ認メ全会一致ノ理事会ノ報告、司法的判決又ハ仲裁審判ヲ無視シタル場合（一）第一項及第二項ニ規定セル場合ハ之ヲ別トシ手続ノ進行期間中理事会ノ承認セル一時の措置ニ違反シタル場合ニ於テハ全員一致ヲ要スル理事会ノ決定ヲ以テ然ラスト宣言スル場合ノ外侵略者ト認メラルヘシ

理事会ハ不当ノ遲滯ナクシテ攻擊者ヲ決定スルコトヲ得サル場合ニ於テハ交戰國ニ對シ休戰ヲ命スヘク又三分ノ一ノ

多數ヲ以テ右休戰ノ条件ヲ決定シ且其ノ執行ヲ監督スヘシ

休戰ノ受諾ヲ拒絶シ又ハ休戰条件ニ違反シタル交戰國ハ侵略者ト認メラルヘシ理事会ハ攻擊國家ニ對シ直ニ本議定書

ノ条項ニ依リ規定セラレタル刑罰ヲ課スル為署名國ノ援助ヲ要求スヘシ

第七条

署名國ハ連盟ニ屬セス從ツテ規約第十七条ノ適用ヲ受ケサル一又ハ二以上ノ國カ右条項中ニ予想セラルル事情ノ下ニ於ケル或場合ニ於テ本議定書ノ署名國中ノ一又ハ二以上ノ國トノ紛争ノ平和的解決ノ為ニ右署名國ニ依リ受諾セラレタル条項ニ付託セムコトヲ勧請スヘキコトヲ約ス

決議ノ本文

総会ハ其ノ千九百二十四年九月六日ノ決議ニ依リ第一及第三委員会ニ付託セル問題ニ關スル右委員会ノ報告ヲ諒承シ

本決議ニ添付セル右二委員会ノ提案ニ係ル議定書草案ヲ歎迎シ左ノ如ク決定セリ

一 右議定書ニ具体示セラルル案ノ受諾ヲ連盟國ニ勧告スルコト

二 連盟國ノ代表者ニシテ既ニ署名スルコトヲ得ル者ノ

二 國際紛争ノ平和的處理ニ關スルジユネーヴ議定書關係

第六七号

（九月二十五日接受）

別電

九月二十四日連盟總会代表堺幣原外務大臣宛（電報）

第六八号

報告ノ件

四三 九月二十四日

（在ジユネーヴ連盟總会代表ヨリ

幣原外務大臣宛（電報）

第三委員会第四分科会ハ甲乙二個条採用ノ旨

往電第五六及第六一号ニ関シ

二十二日午前第三委員会第四分科会ハ別電第六八号ノ通新

二 國際紛争ノ平和的処理ニ関スルジュネーヴ議定書関係

四三

五〇

ニ甲乙二個条ヲ採用シタリ尚既ニ採用サレタル第七条第一項中『締約國ノ義務』以下ハ『締約國ノ義務ハ右制裁力遲滯ナク侵略國ニ対シ適用サレンカ為直ニ効力ヲ生ス』ト修正サレ同条第三項末文『交通ノ安全』以下ハ『交通ノ安全ヲ維持スル為其ノ為シ得ル一切ノ手段ヲ執ルコトヲ個別又ハ共同ニ約定ス』ト訂正サル松田ハ第七条ニ關シ經濟財政的援助ハ有償ナリト解スルコト此点ヲ明瞭ニシ置キタシト述ヘ議長ハ有償ノ旨ヲ答ヘ議事録ニ残セリ第七条ノ二第一項中『理事会ハ』以下ヲ『理事会ハ規約第十条及本議定書第十二条ニ定ムル制裁及財政經濟的ノ援助手段ヲ実施スルニ関シ執ル可キ措置ニ付調査報告セシムル為直ニ國際連盟所属ノ財政經濟的機關ヲ招集ス可シ』ト改ム第九条第三項前半ハ松田ノ提議ニ依リ『若シ少クモ常任理事國ノ過半数及他ノ十個國カ』ト改ム同条第五項中ノ二個月ノ期間ハ我ニ取り短キニ失スルヲ以テ松田ハ三個月ニ改メンコトヲ提議シタルトコロ仏國委員到底困難ノ意ヲ洩シ結局『二ヶ月又ハ夫レ以前成ルヘク速ニ』ト改ムルコトニ折合ヘリ第十条ニ付テハ『本議定書ノ實行』以下ヲ削除ス尚松田ハ第四分科会ノ閉会前日本代表ハ不斷本會議ノ経過ヲ政府ニ報告

上ノ動員ヲ行ハス且概シテ紛争ヲ重大ナラシメ若クハ之ヲ拡大スル行動ヲ為ササルコトヲ約ス規約第一一条ノ規定ニ準拠シ理事会ハ紛争当事國ノ提起スル前項規定違反ノ訴ヲ審査スルコトヲ要ス若シ理事会ニ於テ訴カ理由アリト認メタル時ハ其適當ト認ムル場合一個又ハ數個ノ当事國ニ於テ調査(ヲ)行フコトヲ要ス右調査ハ軍備縮小國際會議力其決定履行ヲ期スル為構成スル機關ニ依リ成ルヘク速ニ執行セラルルコトヲ要ス署名國ハ前記機關ニ其任務遂行上必要ナル便宜ヲ与フヘシ理事会ノ執リタル措置ハ紛争ノ平和的解決ヲ容易ナラシムルコトヲ目的トシ紛争ノ解決自体ヲ予断スルモノニアラス前記機關ハ其調査ノ結果ヲ理事会ニ報告スヘク若シ本条第一項ノ規定ニ関スル違反立証セラレタル時ハ理事会ハ右違反國ニ其違反ノ事實ヲ除カシコトヲ督促スルコトヲ要ス若シ右違反國之ヲ拒絶シタル時ハ理事会ハ右ノ國カ規約及本議定書ノ違反國タルコトヲ宣言シ且平和ヲ脅威スル事態ヲ速ニ除ク為メ執ルヘキ手段ヲ決定スルコトヲ要ス本条ノ適用上理事会ノ決議ハ三分ノ二ノ多數決ニ依ル其際紛争当事國代表者ノ投票ハ之ヲ除外ス(第一委員会トノ関係上条文ノ配置ハ未タ決定セス)

(別電)

九月二十四日連盟總会代表堀原外務大臣宛電報第六八号

第三委員会第四分科会採用ノ甲条及ビ乙条

第六八号 (九月二十五日接受)

甲条署名國ハ他國ニ対シ侵略ノ脅威トナルヘキ一切ノ行動ニササルヘキコトヲ約ス署名國ニ於テ他國ニ於ケル戦争ノ準備ヲ認メタル時ハ右署名國ハ理事会ニ訴ヲ提起スルノ權能ヲ有ス理事会ハ事實ヲ審査シ乙条第二項第四項及第五項ノ措置ヲ執ルヘキモノトス

乙条署名國間ニ紛争起リタル時ハ署名國ハ紛争ノ仲裁又ハ勧解ニ付セラル以前及右仲裁又ハ勧解ノ手続進行中軍備縮小會議ノ定メタル軍備及兵力ヲ増加セサルコトヲ約ス署名國ハ前記ノ期間中陸、海及空軍ノ動員並ニ産業及經濟

四四 九月二十五日 在ジュネーヴ連盟總会代表ヨリ

幣原外務大臣宛(電報)

連盟總会第一委員会ニ於テ第五条第二項及ビ

第三項追加插入方安達代表要求ノ件

別電

九月二十五日連盟總会代表堀原外務大臣宛電報

右安達代表提案ノ第五条第二項及ビ第三項追加条項

第七六号 (九月二十六日接受)

往電第六五号ノ討議ニ関シ貴電第四七号ノ次第モアリ安達

ハ二十五日小委員会ニ於テ第五条第二項トシテ別電第七七号(一)ノ通り(英訳)插入セムコトヲ要求シタリ小委員会ハ

問題カ困難ニシテ且現下ノ政局ニ於テ之ヲ討議スルハ頗ル

「デリケート」ナルモ何等カノ方法ヲ講スルコトヲ要スル

ニ一致シタルヲ以テ安達ハ他ノ委員トモ相談ノ上同日ノ第一委員会ニ於テ我立場ヲ説明シ別電第七七号(二)(英訳)ヲ

第五条第三項トシテ插入スルコトヲ要求シタリ英國委員ハ

我提議ノ重大ニシテ特ニ日本ニトリ非常ナル利益ヲ有スルコトヲ知ルモ考慮ノ為多少余裕ヲ与ヘラルニ於テハ多ク

ノ議論ナクシテ本問題ヲ決シ得ルナラムトテ帝國委員ノ同意ヲ求メタルニ付安達ハ本問題ハ本邦ノミナラス連盟ニト

リ頗ル重大ナルヲ以テ本提議ヲ為シタル旨声明シ討議ハ後

刻行ハルルコトナリタルモ不取敢尤モ右安達ノ提議ハ個人ノ學者的立場ヨリ為シタルモノナルコトハ明ニシ置ケリ

(別電)

同日連盟総会代表発幣原外務大臣宛電報第七七号
安達代表提案ノ第五条第一項及ビ第三項追加条項

第七七号

(九月一十六日接受)

(1) In the case however one of the parties requests the Council shall give a recommendation indicating a way to be followed in order to arrive at Pacific Settlement of dispute.

(2) The above provisions leave unaffected the Council's duty of endeavouring to conciliate the parties so as to assure the maintenance of peace and of the good understanding between the nations.

Zenken

スル制裁ノ適用ヲ督促サレ等シクナリ協力スルノ義務アリ特種協定ニ付テハ其諸国ノ參加ヲ許シ且公開スルト規定シタルニ付旧時ノ同盟條約ハ其存在ヲ失フベク將又軍備縮小會議ノ組織ニ関シテハ仲裁裁判制裁即チ安全ノ保障及縮小ノ三者ノ同時ニ実現セントヲ期スルモ議定書ノ批准ノミハ軍備縮小會議以前ニ実行セシメナリ以テ右會議成功ノ保障トナセリト説明ス英國委員 Henderson へ議定書ハ仲裁裁判ニ関シ^丁國際司法裁判所^丁理事会^丁其他ノ仲裁裁判ノ三機関ノ活用ヲ規定セル処之カ為メリハ國際司法裁判所規定第三十六条ノ適用及連盟規約第十二条、第十三条及第十五条ヲ修正シテ一切ノ紛争ヲ平和的ニ處理スル必要アリ而シテ英國政府ハ犠牲ヲ忍ヒテ右ノ修正ニ同意スル様議会ニ勧告セント欲ス唯右第三十六条勸誘ニ關シテハ将来英國海軍ノトリタル軍事行動ヨリ生スルコトアルヘキ紛争ヲ國際司法裁判所ニ付託セサルコトアリトセハ其ハ規約ノ尊重確保ノ為メ國際連盟ノ容認ヲ以テ侵略國ニ制裁ヲ課スルコト來英國カ戰爭ニ從事スルコトアリトセハ

十六条受諾ノ効果ハ減少セス

四五 九月二十六日 在ジ^ュネーヴ連盟総会代表ヨリ
裕原外務大臣宛(電報)

第四分科会提出ノ議定試案ヲ第三委員会ニ於

テ討議ノ件

第七九号

(九月二十七日接受)

二十一日午後第三委員会ハ第四分科会提出ノ議定試案ニ付

一般討議ヲナス報告者 Beneš へ第一委員会第五分科会起草ノ仲裁ニ關スル条項ト雖モ政治的見地ニ於テハ本委員会ニ審査權アルカ故ニ其全体ヲ審査スルノ必要アリト前提シ右議定書ハ規約第十二条ヲ改メテ一切ノ侵略的戰争ヲ禁止シ規定第十五条ヲ改メテ一切ノ紛争ヲ仲裁裁判ニ付セシメ非連盟國ニハ規約及議定書ヲ等シク準用シ侵略國認定ノ標準ヲ客觀的事実ニ求ムルコトナラシメタリ兵力ヲ以テスル制裁及經濟上ノ制裁ニ關スル第七条ノ規定ハ規約第十六条ノ義務ヲ拡張セスト雖モ兵力ヲ以テスル制裁ヲ課スルニ理事會全体一致ノ勧告ヲ以テ連盟國ノ同意ヲ求ムルハ頗ル不便ナルヲ以テ侵略國ノ決定アリタル時ハ連盟國ハ兵力ヲ以テ

況ンヤ國際司法裁判所ハ諸国ノ軍事行動監視機関トナルカ如キハ決シテ其能事タラサルニ於テヲヤ又制裁ニ依シテハ第一ニ外交手段第二ニ仲裁裁判ニ依ル紛争ノ解決進行中当事國間ニ猜疑心存スルハ危險ナルヲ以テ理事会ニ当事國ノ監視ヲ委嘱スル必要アリ第七条ノ義務ハ規約第十六条ニ舍マルカ故ニ各國ハ何等新ナル義務ヲ負ハス但其義務ヲ忠実ニ履行スル決意ヲ以テ規約ニ加入シタル國ハ規約ヲ支持スル為有効ニ協力スルコトヲ拒ミ得サルヘク唯如何ニセバ右協力カ有効ナルヘキカハ狀況ニ応シ各國ノ決定スヘキ処ナリ又制裁適用ノ場合ニ於ケル理事会ノ任務ニ關シ特ニ注意スヘキハ各國ハ決シテ其兵力ヲ連盟ノ使用ニ供シ理事会ヲ國際軍司令部ト為ス次ニアラサルコト是ナリ特殊協定ニ対スル非難ハ一切ノ紛争ニ仲裁裁判採用及軍備縮小會議開催ノ結果最早理由ナキニ至レリ云々ト述フ伊國委員 Schanzer へ議定書ハ規約ヲ根底トシ連盟以外ニ新機關ヲ設置セス仲裁裁判ノ拡張ハ國際司法裁判所規定第三十六条ノ採用中ニ其解決ヲ求メ得タリ規約第十五条ハ今迄合法ノ戰争ヲ認メタルモ今ヤ議定書ハ理事会全会一致ノ決定ナキ紛争ヲ仲裁裁判ニ付スルコトシテ戰争ノ絶滅ヲ期シタリ

侵略國ノ新提議ハ規約第十六条ニ根底ヲ有ス混成委員会カ右提議ヲ決シ得サリシハ規約以外ニ其解決ヲ求メタレハナリ特殊協定ハ其直接行動ヲ禁シタル結果反対ノ理由ナキニ至リ安全ノ保障実現ト同時ニ軍備縮小ヲ実行スルコトハ全然自己ノ意見ニ合シ本議定書ノ批准ハ世界歴史ニ一新紀元ヲ画スヘシト述フ仏國委員 Boncourt ハ議定書ハ連盟規約ノ施行規則タルコト將又兵力ハ國ノ大小地理的地位等ニ基キ決定スヘキモノナルコト特殊協定ハ侵略ニ暴露サル諸國ノ自衛手段ナルモ之ヲ規約ニ基ク一般的援助組織ニ編入スルニ至レルコト議定書ノ批准ハ軍備縮小実行ノ保障ナルコトヲ述ヘ最後ニ白耳義委員ノ賛成演説アリテ一般討議ヲ終レリ

四六 九月二十六日 在ジユネーヴ連盟総会代表ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

石井大使日本側提出案ニツキパーソニア卿ニ

説明ノ件

第八一號 （九月二十八日接受）

二十六日朝「ペーモー」卿ハ特ニ話シタキ事アリトテ石井ト会談ヲ求メ第一委員会ニ於テ日本ヨリ提出セル規約一

等因ルヘキ根拠無キ案ニシテ斯ル案カ出ル以上ハ日本案ヲ出ス事已ヲ得サル處要スルニ日本ハ本件ニ「イニシアチブ」ヲ執ラサリシニ無理ナル案カ出タル為已ム無ク対案ヲ出シタル訳ナリ「ペーモー」卿ハ本件ヲ承知セス（第一委員会ニハ「セシル・ハースト」出席）石井ノ説明ニ依リテ初メテ事態ヲ解セル様子ニテ尚同僚トモ相談シ重テ内議シタシト言ヒ別レタリ

四七 九月二十六日 在ジユネーヴ連盟総会代表ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

日本側修正案ニ関シ第一委員会討議ノ件

別電 九月二十五日連盟総会代表發幣原外務大臣宛電報

第八三号

（九月二十七日接受）

往電第七七号ニ関シ

第八二号

二十六日英國委員ト協議シタルニ英國側ヨリ別電第八三号ノ通リノ案ヲ一般規定トシテ第十八条トシ插入セン事ヲ求メタルモ我方承諾ヲ与ヘス問題ノ全部ヲ同日午後ノ第一委員会ニ於テ討議スル事ト為リ同委員会ニ於テ英國委員ハ

員会ニ於テ討議スル事ト為リ同委員会ニ於テ英國委員ハ

一致ヲ見サルニ付妥協案ヲ研究セラレン事ヲ我ニ求メ「チエッコスロバキア」亦同様ノ意見ヲ述ヘタリ之ヲ要スルニ

我修正案ノ討議ハ問題ノ重要ナル丈非常ナル注意ヲ喚起セリ

（別電）

九月二十五日連盟総会代表發幣原外務大臣宛電報第八三号

二 國際紛争ノ平和的処理ニ関スルジユネーヴ議定書関係

十八条トンテ插入ラ希望ンタル英國案

第八三三号

The undersigned agree that except an herein provided the present protocol shall not affect in any way the rights and obligations of members of the League as determined by the Covenant including in particular the duty of the councils to endeavour to achieve by conciliation the settlement of disputes so as to assure the maintenance of peace and a good understanding between nations.

Zenken

四八 九月二十七日 在ジユネーヴ連盟總会代表ヨリ
幣原外務大臣宛 (電報)

議定書第六条第一項第一号末段ニ対スル日本

側ノ反対ニ關シ石井、ブリアン両全権会談ノ件

第六号

(九月二十九日接受)

往電第八一號ニ閲シ

「プロトコール」案第六条第一項第一号末段ニ対スル日本

ノ「プロトコール」案文ヲ削除スル外ナシ日本ハ既ニ右案文ニ反対ナル以上ハ棄権又ハ留保ノ手段ニ出スル能ハスト極メテ強硬ニ拶挨シ尚「ブリアン」及特ニ「ルショール」ヨリ繰返シ再考ヲ求メタレトモ石井ハ飽迄自説ヲ主張シテ別レタリ

石井カ右ノ如ク強硬ナル態度ニ出テタルハ左ノ理由ニ依ル

(一)日本カ反対セサレハ第六条ハ原案ノ儘全会一致ヲ以テ通過スヘキ勢ニテ右通過ノ上ハ帝国政府ハ大ニ迷惑ナル地位ニ置カルヘキヲ以テ之ヲ予防スルコト
(二)仏國側ハ頻ニ「ムニオノ」ヲ引合ニ出シ居ルモ真ノ反対者ハ「ムニオノ」ヨリモ却テ仏國側ニアリト思ハルル節アリテ我態度ノ強硬ナルヲ知ラハ仏國側ハ「ヨナニミテ」ノ規定ノ為全体ノ瓦解ヲ來サンコトヲ恐ルル余リ交譲ノ態度ニ出スルコトモアランカトノ希望アルコト(石井ハ後刻「ペームー」卿ト會見ノ約アリテ右會見ニ於テ「ムニオン」側ノ態度ヲ探り得ル希望ヲ有シタリ)以上二個ノ理由ニ依リ此際右様強硬ナル態度ニ出テ居ルモ本問題カ本會議ニ上ルハ二十九日ナルヲ以テ夫迄各方面ノ形勢全ク我ニ不利ナラハ其時ニ及ンテ「ブリアン」等ノ希望ノ如ク

完全ナル留保ノ形式ニ出テ得ルノ余地アルハ勿論ナリ折返シ御電訓ヲ得レハ此上モナシ

四九 九月二十七日 在ジユネーヴ連盟總会代表ヨリ
幣原外務大臣宛 (電報)

安達提案ニ關シ石井・パーキー卿会談ノ件

第六号

(九月二十九日接受)

往電第八一號ノ通「ペームー」卿ヨリ申出アリタルコトナレハ石井今二十七日晚同卿ト會見ヲ約シアリタルカ右會見ニ先立チ往電第八六號所報「ブリアン」等トノ會見アリタル次第ナリ石井ハ右會見後「ペ」卿ヲ訪問シテ長時間ノ内談ヲ試ミタルカ同卿ハ朝ヨリ主ナル仕事殊ニ午後理事会ノ為痛ク疲勞シ交渉意ノ如ク進マサリシモ「ムニオン」側ノ恐ルル主ナル点ハ往電第七七號安達ノ提案即チ理事会カ規約第一五条第八項ノ内政問題ヲ手放サヌシテ之ニ干涉ヲ続クルコトノ点ニ在ルコト明カトナレリ尤モ同項内政問題ノ為干戈ニ訴ヘタルモノヲ「アグレッサー」トスルコトハ「ムニオン」側ニトリ都合良キコトナレハ日本ノ提議タル「プロトコール」第六条第二項第一号末段削除説ニハ寧ロ反対ナルヘキモ其反対ノ程度ハ右往電第七七號安達案

ニ対スル反対程強キモノニハアラスト見ラレタリ依テ石井ハ右第六条第二項第一号末段削除ノ結果ハ要スルニ規約ノ現状維持ニ外ナラサレハ同卿ヨリ「ドミニオン」側ヲ説キ举ツテ我削除ノ提議ニ賛成セシムル様依頼シ置ケリ同卿ハ明日曜日各「ドミニオン」代表ヲ集メ評議ノ上更ニ石井ト会見スルコトトナレリ

五〇 九月二十七日

在ジュネーヴ連盟総会代表ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

安達声明ノ発表時期ニツキ報告ノ件

第八八号

（九月二十九日接受）

往電第八二号ニ関シ

安達案撤回後我方ハ「プロトコール」第六条末段削除ノ一本槍ニテ進行スルニ決シ右削除説容レラレサレハ日本ハ右第六条ニ反対（留保ニアラス）スヘシト声明案ヲ作り安達ハ今二十七日第一委員会ニ於テ右声明ヲ為ス筈ナリシカ仏國側ハ之ニ驚キ終ニ「ブリアン」「ルシュール」ト石井トノ会見トナレル次第ナリ但右声明ハ右会見及石井「ペームア」会見ノ後ニ為ス心算ナリシ処両会見カ長引キシ為第一委員会ハ安達ノ求ニ依リ閉会シ明日曜ニ開カルヘキ同委

八十時「ペームア」卿ト法律顧問「セシル・ハースト」ト三人ニテ二時間ノ協議ヲ為セルカ要スルニ英國側ハ問題ノ内政的ナルヤ国際的ナルヤニ関シ英仏間ニモ屢々問題起リ現ニ過般仏国政府カ「チュニス」ニ於テ英國籍民ヲ微兵ニ採リタル問題ニ関シ仏國ハ之ヲ内政問題トシ英國ハ之ヲ国際問題トシ終ニ常設裁判所ニ訴ヘテ右ハ国際問題ト決セラレタル例アリトテ此例ヲ引用シテ問題ノ内政的ナリヤ否ヤハ裁判所ノ判定ニ任セテ可ナリ而シテ一旦内政的問題ト判定セラレタル上ハ此問題ニ関シ干戈ヲ執ルモノヲ「アグレッスール」トスルコト正当ナリトテ昨日ノ所言ト大ニ異リタル態度ニ出テタリ

石井ハ之ニ対シ事件ノ或ル程度ニ於テ内政問題タルモノモ其程度ノ進ムニ從テ国際問題ト変化スルヲ常トス規約第五条第八項ハ即チ事態大ニ進シテ將ニ戦争開始又ハ其虞アル場合ヲ規定スルモノナル處此場合ニ於テ尚内政問題ナリト一方のニ断定シ理事会ハ之ニ対シ解決案ヲ提供スルコト能ハサルニ拘ラス係争者ノ一方ヲ「アグレッスール」ト宣言セントスルハ非論理不自然極マルモノニシテ此場合ニ於テ理事会ハ自己ノ無能力ヲ自認シテ万事ヲ差シ控フルノ外

員会ニ於テ同日ノ石井「ペームア」卿会見ノ都合ニ依リテハ安達ヨリ右声明ヲ為スノ段取トナルヘク此間寿府ノ空氣ハ急ニ緊張シタルモ実ハ各国代表スラ争点ノ真相ヲ知ラ

サルモノ多キ位ニテ新聞屋ノ如キハ事實ヲ解セス徒ニ日本ハ大事業ノ進行ニ向テ「ボンズ」ヲ放チタリ等誇張ノ電報ヲ發スル向アリト聞ク我方ハ右声明ヲ為ス場合ニハ同時ニ我態度ヲ説明スル「コミニケ」ヲ發スルノ準備ヲ為シツ

ツアリ

五一 九月二十八日

在ジュネーヴ連盟総会代表ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

議定書案ニ關シ石井全權英國代表ト折衝ノ件

第九一号

（九月二十九日接受）

日本ノ反対ニ依リ「プロトコール」案ノ運命危殆ニ瀕シタルヲ以テ英國代表ハ各「ドミニオン」代表ヲ集メ今日曜朝會議ヲ開ク由ヲ聞キ石井ハ其前濠州代表（第一委員会議長ニシテ日本案ニ最モ反対ナル一人）ニ会見ヲ求メ朝九時面談ヲ試ミタルモ濠州ハ「プロトコール」原案ニ於テ重大ナル利器ヲ得タルヲ以テ之ヲ手離スヲ欲セス飽ク迄日本ノ削除案ニ反対シ何等要領ヲ得ルコト能ハス其ヨリ転シテ石井

ナシ即チ世界ノ現状ニ於テハ規約第一五一条第八項ハ現状ノ儘ニスルノ外ナキコトヲ繰返シタル處「セシル・ハースト」ハ各國法律家間ニハ現ニ規約第一五一条第八項ニ所謂内政問題ノ範囲ヲ限定スルノ必要ヲ感シ各場合ヲ「クオリファイ」セント努メツツアルモノ多ク就テハ各場合ヲ列挙シ内政ト国際問題トノ範囲ヲ限定スレハ日本ノ故障ハ無クナル訳ナリヤト問ヒタルニ付右限定ニシテ我政府ノ承認シ得ヘキモノナレハ之ニ依リテ我政府モ本案ニ同意シ得ルニ至ルヘケンモ右限定ノ如キハ一朝ニシテ能クスヘキニアラスト答ヘ更ニ進テ交渉愈不調ノ場合ニ日本ノ為スヘキ声明案ニ關シテモ意見ヲ交換シ（一案ヲ得タルモ其ハ後ニ述フヘシ）、終リニ石井ヨリ本件ハ元來英國又ハ「ドミニオン」ヨリ発案セラレタルモノニアラス就テハ日本側ノ奔走ニ依リ発案者ニ於テ我削除説ニ同意ヲ得タル場合ニハ「ペームア」卿ヨリ各「ドミニオン」ヲ説キ同シクニ同意スルコトヲ首肯シ得ヘキヤト問ヒタルニ「ペームア」卿ハ『勿論』ト云ヒナカラ「ドミニオン」説得ノ困難ヲ感シタルモノカ急ニ語調ヲ變シ兔ニ角仏國側等ニ於テ日本案ニ同意スルニ至ラハ事態ハ一進歩ニシテ解決モ夫レ丈ヶ容易トナル可キ旨

ヲ答ヘタリ更ニ転シテ午後一時石井ハ「ブリアン」ヲ訪問シ今回主トシテ仏國側ノ提唱ニ係ル「プロトコール」案ノ為日本カ非常ニ迷惑ナル地位ニ置カレタルコトヲ説キ我削除説提出ノ已ムヲ得サル次第ヲ述ヘテ其ノ賛成ヲ求メタル處「ブリアン」氏ハ昨日石井トノ会見ニ於テ本件カ事ノ外重大ナルコトヲ深ク了解シ別後「ルシヨール」トモ協議ノ上枉ケテ日本ノ削除説ニ同意スルニ決シタル旨ヲ告ケタリ右案外ノ好結果ニ付石井ハ厚ク「ブリアン」氏ノ好意ヲ謝シ尚進ンテ「ア」氏ヨリ「ペ」卿ヲ説カレタキ旨ヲ依頼シ之亦其快諾ヲ得タリ以上日曜午餐前ノ現況ナリ

五一 九月二十九日

在ジユネーヴ連盟總会代表ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

議定書第六条第二項末段ノ削除ニ關スル各國

ノ態度報告ノ件

第九七号

二十八日午後ノ第一委員会ニハ先ツ議定書第六条第二項末段削除説ヲ主張シ委員会ニ於テ否決ノ場合往電第九一号末段ニ言及シタル案ヲ提示シ以テ該條ニ対スル本邦側ノ反対

ヲ明瞭ナラシムルコトニ打合セ會議ニ臨ミ開会前英、仏委

第九八号

（九月三十日接受）

往電第九一号ニ一案ヲ得タリト謂ヒシ案ハ左ノ通
The Japanese delegation while supporting generally the provisions of Article 7 regrets that they are unable to accept the latter part of Paragraph 1 of that Article until some agreement has been reached by convention or otherwise defining more clearly what subjects fall solely within the domestic jurisdiction of a state.

即チ右案文ハ日本提議タル「プロトコール」案第六条末段削除説カ第三委員会ニ於テ否決セハレタル場合ニ日本代表カ同条ニ対シ反対スルト同時ニ為スヘキ宣言案ト御承知アリタシ

五四 九月二十九日 在ジユネーヴ連盟總会代表ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

理事会秘密会ニ於テ議定書第六条第二項末段

ノ削除ニ關スル我方ノ主張ニツキ討議ノ件

（九月三十日接受）

往電第九七号ニ閲シ

今二十九日朝開カルヘキ第一委員会分科会ハ最モ重要ナル場合ニ達シタルニ付石井モ之ニ加リ安達ト共ニ飽迄我主張

一一 國際紛争ノ平和的處理ニ關スルジユネーヴ議定書関係

五四

員ト懇談シタルモ纏ラス終ニ安達ハ削除説ヲ声明シタル処

伯刺西爾委員ハ本邦側主張ノ根本主義ニハ賛成ナルモ之カ実現ヲ得ント欲セハ國際協力ニ依ル方至当ニシテ問題カ全然国内管轄權ニ属スト決定シタル場合戰爭ヲ許スカ如キハ不当ナリトノ理由ニ依リ本邦案ニハ同意シ難シト述ヘ希臘

委員「ボリチス」ハ連盟カ紛争ニ閑シ何等解決方法ヲ与ヘサルニ拘ハラス直ニ侵略國ノ推定ヲ為スハ不当ナリ日本案ハ何等斯ル場合戰爭ヲ主張スルニアラス然ルニ直ニ之ヲ侵略國ト推定スルハ不当ナリト言フニ存ス条理整然之ヲ承認スルモ何等吾人ノ趣旨ニ反セストス本邦案ニ賛意ヲ表シ次

テ本邦案反対ヲ表明シ居リタル白耳義ノ「ローラン」モ「ボリチス」ノ議論ニ動カサレテ同シク賛成ヲ表明スルニ至リ委員会ノ形勢混沌タリ終ニ仏國委員ノ動議ニ依リ本問題ヲ更ニ二十九日朝開会ノ分科会ニ付託スルコトニ決セリ

五三 九月二十九日

在ジユネーヴ連盟總会代表ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

交渉不調ノ場合日本ノ為スベキ声明案ニ關スル件

ル件

（九月三十日接受）

ヲ維持スル積リナリシ処之ヨリ先同ク今朝開カレタル理事會ニ於テ「ブリアン」ヨリ石井ニ對シ理事会ヲ延シ本件ニ付日仏英伊ノ理事ノミニテ内協議ヲ為シ度キ旨申出アリ石井ハ之ヲ諾シタルニ他ノ理事之ヲ聞付ケ何レモ右内協議ニ加ハリタシトノ希望ニ已ム無ク理事会全部ニ第一委員會議長及報告員ヲ加ヘテ秘密會ヲ開ク事トナレリ從テ第一委員會ハ流会トナレリ秘密會劈頭石井ハ日本カ「プロトコール」第六条ニ対スル反対案ヲ提出スルコト遲レタル為総會期日ノ延期ヲ來タセリトノ風評ノ無根ナル所以即チ日本ハ起草委員会ニ代表セラレ居ラサリシ為日本ノ反対セサルヲ得サルカ如キ案ノ存在ヲ知ラサリシ次第ニシテ之ヲ知ルヤ直ニ反対ノ意ヲ表明シタル事ナレハ右遲延ニ對シ日本ハ毫モ責任無キ事ヲ言明シタル上本件ノ内容ニ亘リ理事会カ解決案ヲ提出スル能ハサリシ問題ニ對シ「アグレッサー」ヲ推定スルノ資格無キ所以ヲ切言シ日本ハ到底斯ル案ニ同意スルコト能ハスト断言シタルニ始リ議論百出シタルカ其概略ヲ述レハ第一ニ仏國「ルシヨール」（彼ハ何人ノ承諾ヲ得シテ「ブリアン」氏ノ傍ニ座シ居タリ）ヨリ過日分科會ニ於テ安達ヨリ提出セル案ハ其後撤回セラレタルモ右案

ヲ復活シ即チ日本ノ名譽及満足ヲ買ハシカ為之ニ多少布衍スルノ解決案ヲ試ミタルニ對シ英國及「ドミニオン」側ハ之ニ反対ノ意向ヲ示シ又石井ハ安達カ右案ヲ提出セルハ一ノ法律家ノ見地ヨリ「テンタチープ」ニ為シタルモノニテ右案ニ對シ強キ反対アルヲ知ルヤ直ニ之ヲ撤回シタルモノナレハ右案ハ既ニ葬ラレタルモノト承知セラレタク且右案ハ「プロトコール」第五条ヲ議スル際同条第二項トシテ追加セントノ提議ニシテ當時第六条ハ未タ討議ニ入ラサリシモノナレハ第六条ニ對スル日本ノ反対ハ第五条ニ對スル安達案カ採用セラレタリトスルモ依然存在スル証ニテ「ルシユール」氏ノ解決案ハ事實本件ノ解決ヲ助クルモノニ非スト答へ「ルシユール」案ハ茲ニ消滅セリ

第一二ハ「ペーモーア」卿ヨリ日本代表カスクリ明確ニ反対スルモノヲ吾人カ無理ニ之ヲ通過セシメタリトテ後日日本政府ノ「プロトコール」調印ヲ得サレハ吾人ノ事業ハ遂ニ画餅ニ帰スヘシ就テハ日本ノ関スル限り如何ナル除外的留保ヲ為サルモ吾人ハ努メテ之ヲ承諾スル積リニ付日本側ヨリノ希望セラル留保ノ内容ヲ示サレ度シト言ヒタルニ對シ石井ハ「ペーモーア」卿ノ説ハ尤モナル様ナレトモ日

ール」氏ノ不満且ツ困迫セル態度ナリキ

五五 九月三十日 在ジュネーヴ連盟總会代表ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

小委員会作成案ニ對シ一部字句削除ノ上同意
スルコトニシタル旨報告ノ件

別電 九月三十日連盟總会代表発幣原外務大臣宛電報第
一〇一號

小委員会作成案

（十月一日接受）

小委員会作成案

（十月一日接受）

往電第九九号ニ關シ

九月二十九日午後「ルシユール」「ベースム」「シヤュヤ」（安達ハ他ニ都合アリ欠席）ヨリナル小委員会ニ於テ別電第一〇一號（）及（）ノ如キ案文ヲ作製シ右ニ折合ハレ度キ旨申出タリ依テ篤ト研究シタル結果我方ニ於テハ主義上依然第六条第二項一ノ末段削除説ヲ固執スルモ斯テハ限りナク會議ノ進行ヲ妨クルノ惧アルヲ以テ別電第一〇一號（）ニ付テハ規約第一九条及第二三條ヲ削除シ（）付テハ右一条削除ノ外末段 As if it did not delete such article in the

last case the State shall only be an aggressor if it has

本ノ留保ノ形式及内容ハ日本ノ發議タル削除案カ第一委員會ニ於テ否決セラレタル場合ニ日本代表ニ於テ決定スヘキ問題ニシテ今吾人ハ日本提議ニ依リ起リタル難関ヲ解決スルニ努メツツアル此際斯ル留保問題ヲ議スヘキニアラスト述ヘ此時今迄沈黙ヲ守リ居タル伊國理事ハ「ペーモーア」卿ノ如ク日本カ思ウ儘ノ除外的留保ヲ為シ得ルモノトセハ日本ハ非常ニ有利ナル特權地位ニ置カルル証ニテ斯テハ他國モ均霑セント欲スルモノ統出セント注意シ議事漸ク紛糾セリ既ニ一時余モ討議ヲ重ネタル後遂ニ「プロトコール」第六条中日本ノ削除ヲ主張スル部分ニ對シ日本ヲ満足セシメ且原案ノ精神ヲ汲入ル目的ヲ以テ日英仏伊ノ法律家トシテ安達、セシル・ハースト、ルシユール、シャロヤ四人ニ右起草ヲ託スルニ決シテ散会セリ從テ右臨時起草委員報告アル迄第一委員会分科会ハ休会スルコトトナレリ尚右伊國理事發言後「ブリアン」氏ハ非常ナル弁舌ヲ振ヒ石井ノ説明ニ依リテ日本ノ主張ノ大ニ理由アルコトヲ發見シ今ハ全然日本説ニ賛成ナル旨ヲ述ヘ進ンテ英國及「ドミニオ」側ニ於テ日本ノ主張ヲ容レラレンコトヲ希望スルト迄言明シ一座ヲ緊張セシメタルカ茲ニ面白カリシハ「ルシユ

not previously asked for action to be taken under Articles 11, 19 or 23 of the Covenant, or if it has refused to set these Articles in motion as proposed by the Council or by the Assembly.

Zenken

五六 九月三十日 在ジ・ネーヴ連盟総会代表ヨリ
幣原外務大臣宛 (電報)

第三委員会ニ於テ議定書ニ關スルベネシヨ起

草ノ報告書案討議ノ件

(十月一日接受)

一十七日午前及過般ノ會議ニ於テ第三委員会ハ議定書ニ関スル Beneš 起草ノ報告案ヲ討議ス右案ハ第一及第三ノ両委員会共同シテ総会ニ提出スベキ一報告書ノ形式ニテ作製サレ第一條文第一由來第三議定書各条註釈ノ三部ヨリ成り其条文及由來ハ第一及第三ノ両委員会ニ共通ノモノ而シテ第三部ハ用第一委員会採用ノ各条ノ註釈 (第三委員会採用ノ各条ノ註釈ヨリ成レリ右) 内第七条第一項ノ規定ハ嚴格ナル obligation juridique ヲ構成ストノ字句ニ付松田ハ於テモ字句修正方ヲ希望シ瑞典委員等ヨリモ同一ノ申出ア

リ右字句ハ遂ニ削除セラレタルニ付報告書ハ議定書第七条ト共ニ吾人ニトヨ acceptable ノモノト為レリ尚右以外字句ノ修正ニ関シ種々ノ発言アリタルモ特ニ記スベキモノナシ又右報告書ハ往電第六五号末段ノ総会決議案ニテ終レル處起草委員会ノ提議ニ基キ第三委員会ハ第九条中國際會議ノ招集ニ關スル事項、右會議關係書類ヲ各國政府ニ送付スヘキ期日ニ關スル事項及五月一日迄ニ必要ナル批准カ得ラレナル場合ノ措置方ニ關スル事項ヲ総会決議案ノ末尾ニ移ス事ニ決ス尚諾威委員ヨリ来ルヘキ軍備縮小國際會議ニ付議ス可キ軍備縮小案立案ノ際参考ニ資ス可キ諸点 (往電第91号) ノ軍事費予算制限地方的協定ノ設定及華府海軍条約原則普及條約案審査ノ問題ヲ包含スル外平時兵數軍艦及航空機ノ噸數特種ノ危險ニ暴露セル國ノ地位等軍縮ニ關スル一般計画及無防備地帯ノ設定勧告並ニ締約国軍備ノ調査監督等 (含ム) ヲ掲ケタル決議案ヲ提出シ英仏委員ハ斯カル決議ヲ為ス事ナク立案ヲ理事会又ハ混成委員会ノ自由ニ放任ス可シト主張シタルカ結局右ハ参考ニ資スルニ過キサルニ付害ナシトテ通過セリ

以上ニテ第三委員会ハ茲ニ終了ヲ告ケタリ

五七 九月三十日 在ジ・ネーヴ連盟総会代表ヨリ
幣原外務大臣宛 (電報)

小委員会作成案ガ我方主張ノ修正ヲ付スル上

ハ反対セガル旨回答方決定ノ件

(十月一日接致)

往電第一〇一號ニ關シ英仏伊法律家ノ案ヲ篤ト考慮シタル處我カ反対ノ主要点タル『理事會ノ解決案ヲ与ヘ能ハサル問題ヨリ起リタル出来事ニ付「アグレッサー」ヲ推定スルノ理由ナシ』ヘヘ点ハ規約第一一条ニ依リ理事會ノ問題ヲ提出スルノ手続ヲ經タル場合ハ理事會ハ「トグンハヤー」ノ推定ヲ為シ得サルコトメナル訳故事実此ノ点ニ關スル我カ主張ハ万全ヲ得タル訳ニテ此ノ上微細ノ点ニ付我ヲ張ルハ由下連盟ノ空氣ニ照シ我レニ対スル一般ノ感情ヲ害シ結局不利益ト存セラルニ付我レハ論理上依然我カ削除説ヲ最良ト信スルモ妥協ノ精神ヨリ往電第一〇一號ノ修正ヲ付スル上ハ大体之ニ反対セサル旨ヲ回答スルニ決シタリ今朝日英仏伊ノ法律家委員会ニ於テ英國側ヨリ今早朝催サレタル英國及「ム・リオン」側協議ノ結果規約第一九条及第二三条ヲ削除方申出アリ右ハ我カ望ム所ナリシ故直ニ削除ト

Article V.

If the question is held by the Court or by the Council to be a matter solely within the domestic jurisdiction of the state, the decision shall not prevent consideration of the situation by the Council or by the Assembly under Article 11 of the Covenant.

Article VI.

Nevertheless in the last case the state shall only be presumed to be aggressor if it has not previously submitted the question to the Council or the Assembly under Article 11 of the Covenant.

五六 八 十月一日 在ジ・ネーヴ連盟総会代表ヨリ
幣原外務大臣宛 (電報)

議定書案ニ對スル政府ノ完全ナル自由留保ノ件

声明ハ差シ当リ行ナワザル報告ノ件

11 國際紛争ノ平和的処理ニ關スルジ・ネーヴ議定書関係

五七 五八

(十月一日接受)

六五

「プロトコール」案ニ對スル總会決議案ハ極メテ廣汎的ノモノニテ「プロトコール」ノ承諾ヲ各國政府ニ勸奨スト云フコトヲモ憚リテ單ニ「プロトコール」ニ對シ各國政府ニ慎重ナル考慮ヲ与ヘラルコトヲ勸告スト云フニ止マル其茲ニ到リタルハ第一及第三委員会ニ於テ日本代表カ一般的留保ヲ為シタルニ對シ各國代表ニ於テモ日本ト同様ノ留保ノ下ニ行動スルモノナリト云フモノ多ク且ツ「プロトコール」案ヲ強フルカ如キ字句アリテハ紛糾ヲ起サントノ虞アリタルカ為ナリ且又「プロトコール」批准ノ場合ニ於テモ本使等ハ原案ニ常任理事国全部ノ批准無ケレハ軍備會議招集ヲ取消スヘシ云々ノ文句ニ對シ斯クテハ軍備會議ヲ不成立ニ帰セシムルノ責任ニ駆ラレ帝国政府ヲシテ其責任感ノ圧迫ニ依リテ批准ヲ余儀無クセラルニ至ルカ如キコトナカラシムル為右文句中常任理事国全部トアルヲ過半數ト修正スルコトヲ提議シ遂ニ之ヲ通過セシメタルコトナレハ右等ノ事情ヲ綜合シテ将来帝国政府ノ完全ナル自由ハ事実既ニ我ニ收メ居ルコト故貴電第四七号ニテ御承認ヲ得タル場合ニ於ケル留保声明ハ之ヲ為ササル積リナリ何トナレハ右留保ハ實際何等ノ効果無キニ到リタルノミナラス列國対日

リタルカ為ナリ且又「プロトコール」批准ノ場合ニ於テモノ下ニ行動スルモノナリト云フモノ多ク且ツ「プロトコール」案ヲ強フルカ如キ字句アリテハ紛糾ヲ起サントノ虞アリタルカ為ナリ且又「プロトコール」批准ノ場合ニ於テモ

本ノ爭議ニ於テ日本ハ勝利ヲ得タリト感シツツアル世間公衆カ此ノ上日本ノ留保ヲ聞カハ意外ノ誤解又ハ鮮クトモ我ニ不利ナル批評ヲ為スノ虞アレハナリ尤モ總会ニ於ケル論争中万一該留保ノ声明ヲ要スル形勢トナラハ右声明ヲ為スヘキハ勿論ナリ右御含ミ迄

五九 十月一日 在ジュネーヴ連盟總会代表宛（電報）

安達修正案ニ関シ米國方面ニ誤解アル模様ニ

ツキ適宜声明書發出方訓令ノ件

第五九号

仲裁議定書ニ對スル安達修正案ニ關シ米國方面ニ於テハ之ヲ主トシテ移民問題ト関連スルモノト即断シ大分神経ニ病ミ居ル模様ナル処政府トシテハ屢報ノ通り本議定書全体ニ對スル態度ニ付テモ尚考慮中ナル状態ナルニ付此際貴官ニ於テ本件ハ何等対米問題又ハ移民問題ト云フカ如キ個々ノ具体的問題ヲ考量ニ置キタルモノニ非ス総括的ニ議定書ノ趣旨ヲ全カラシメムトスル希望ニ出テタルモノナルコトノ趣旨ヲ敷衍シ會議ノ進行ヲ妨ケサル限り適宜貴官ニ於テ声明書ヲ發セラレ成ルヘク米國並英殖民地方面ニ伝ヘラル

様御措置相成方可然ト思考ス

尚欧米各大使ニ本件ニ關スル任國ノ輿論ニ付注意シ貴官並當方ヘ電報スル様本大臣ノ訓令トシテ發電アリ度シ

六〇 十月二日 在ジュネーヴ連盟總会代表ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

平和議定書案ニ關シ連盟總会本會議ニ於テ石井全権演説ノ件

第一一二号

仲裁安全及軍縮ニ關スル「プロトコール」案ハ九月三十日

第一委員会ヲ通過シ今一日總会ニ提出セラル依テ一日夜ノ

總会ニ於テ石井ハ大要左ノ如ク演説セリ

日本代表ハ過クル一個月間誠實公正本「プロトコール」案

ノ作成ニ協力セリ本事業ノ極メテ重要ナルハ他ニ比類ナク

而テ是吾人カ最卒直ニ我見解ヲ陳述スルヲ憚ラサリシ所以

ナルカ之力為時ニ討議ヲ機微ニ陥ラシメタルコトナキニア

ラス然レ共日本代表ハ終始一貫協調ノ精神ヲ以テ行動シ來レリ而テ我主張タルヤ純然タル法律問題ニ屬シ之カ動機モ亦吾人ノ事業ヲシテ好ク論理ニ合致セシメムト期シタルニ外ナラススル複雜且困難ナル問題ハ卒直ト善意トアツテコ

ソ初メテ最後ノ成功ニ到達シ事業ノ永続性ヲ確保シ得ルモノト信ス諸賢ノ偉大ナル努力ニ依リ茲ニ仲裁及安全ニ依ル平和ヲ世界ニ齎シ人類ヲ軍備ノ重荷ヨリ解放セムトスル我大事業ノ基礎ヲ築クニ至レリ日本代表ハ本決議案カ各國代表ニ於テ何等ノ留保ナク贊成シ得ル様慎重ニ起草セラレタルヲ悦ヒ茲ニ本決議案ニ賛同セムトスルモノナルコトヲ宣言ス

付記一 總会決議

二 國際紛争平和的處理ニ關スル議定書

第一一四号

総会第六

（十月三日接受）

ノ件

六一 十月二日 在ジュネーヴ連盟總会代表ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

連盟總会ニ於テ議定書等ニ關スル決議案可決

二 國際紛争ノ平和的處理ニ關スルジュネーヴ議定書關係

六〇 六一

六七

ニ付議スヘキ軍備縮小案立案ノ際参考ニ資スヘキ諸点ヲ掲ケタル決議案ニ対シ理事会ニ於ケル自由決定ヲ妨ゲストノ了解ノ下ニ可決セラル尙連盟未曾有ノ成功ニ付四常任理事国首相宛祝電ヲ發スルノ決議通過セリ

(付記一)

総会決議

決議第一

連盟総会ハ左ノ事項ヲ決議ス

一、議定書ヲ慎重審議スルコトヲ一切ノ國際連盟國ニ對シ勸告スルコト

二、右議定書ハ其ノ定ムル条件ニ従ヒ即時ニ署名シ得ル連盟國ノ代表者ノ署名ヲ直ニ許シ又他ノ一切ノ國ニ對シテモ之ヲ許スコト

三、議定書中ニ定メラレタル規約ノ修正案文ノ作成ヲ担当スル委員会ヲ遲滞ナク任命スルコトヲ連盟理事会ニ要求スルコト

四、左記議定書第十七条ノ諸規定ニ従ヒジュネーヴニ於テ会合セラルヘキ國際軍備縮小會議ノ招集ヲ連盟理事会ニ依頼スルコト

決議第二

連盟総会ハ常設國際司法裁判所規程第三十六条第二項ノ規定ニ関スル第一委員会ノ報告ヲ了知シ

右報告ハ前記第三十六条第二項ノ規定カ諸國ニ對シ其ノ必要欠クヘカラスト認ムル留保ヲ為シタル上右規定ノ為作成セラレタル特別議定書ニ加入スルコトヲ許スモノト解釈スルノ余地アルコトヲ審査シタル結果作成セラレタルモノナ

ルコトヲ思ヒ

右報告ハ國際正義ノ進歩ニ關係シ且前記裁判所ノ義務的管轄權ヲ出来得ル限リノ広キ範囲ニ於テ最大多数ノ國ヲシテ受諾セシメムトル輿論ノ期待ト適合スルモノナルコトヲ確信シ、諸國カ成ルヘク速ニ前記裁判所ノ規程第三十六条第二項ニ依リ許サレタル特別議定書ニ加入セムコトヲ勸告ス

ノ縮小ヲ實現セシムル目的ヲ以テ

下名ハ之カ為正当ナル委任ヲ受ケ左ノ如ク協定セリ

第一条

署名國ハ左記諸条ニ定ムル規定ノ趣旨ニ基キ連盟規約改正ヲ加フルコトヲ確保スル為出来得ル限り一切ノ努力ヲ為スヘキコトヲ約ス

署名國ハ右規定カ本議定書ノ実施期日ヨリ相互間ニ拘束力ヲ生スヘキコト並署名國ノ閑スル限り國際連盟ノ總會及理事會ヲシテ本議定書ニ依リ与ヘラレタル一切ノ義務ヲ行使シ且一切ノ義務ヲ履行スルノ權能ヲ有セシムルコトニ同意ス

第二条

署名國ハ相互間ニ於テ又ハ事件發生ノ場合以下ニ定ムル一切ノ義務ヲ受諾スル國ニ對シ如何ナル場合ニ於テモ戦争ニ訴ヘサルコトニ同意ス但シ侵略行為ニ抵抗スル場合又ハ総盟規約及本議定書ノ規定ニ従ヒ國際連盟ノ理事会又ハ総會ノ同意ヲ得テ行動スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三条

希望ニ促カサレ國際團體ニ屬スル諸國ノ連帶關係ヲ認メモノナルコトヲ確認シ

侵略的戰爭ハ右連帶關係ヲ侵害シ且國際的罪惡ヲ構成スルモノナルコトヲ確認シ

國家間ニ於ケル紛争ノ平和的處理ノ為國際連盟規約ニ規定セル制度ノ完全ナル適用ヲ容易ナラシメ且國際的罪惡ノ抑制ヲ確保セムコトヲ欲シ

且該規約第八条ニ定メラレタルカ如ク國ノ安全及國際義務ヲ協同動作ヲ以テスル強制ニ支障ナキ最低限度迄國ノ軍備

二 國際紛争ノ平和的處理ニ關スルジュネーヴ議定書関係

ル事件ニ付該裁判所ノ管轄権カ当然ニ且特別ノ合意ナクシテ義務的ナルコトヲ承認スルコトヲ約ス但シ同条ニ規定セラレ且千九百二十年十二月十六日署名ヲ許サレタル特別議定書ニ加入スルニ際シ各國カ前記条項ニ抵触セサル留保ヲ為スノ権利ハ之ヲ妨ケサルモノトス

千九百二十年十二月十六日署名ヲ許サレタル特別議定書ニ對スル加入ハ本議定書実施ノ翌月内ニ之ヲ為スコトヲ要ス本議定書実施後之ニ加入スル国ハ其ノ加入ノ翌月内ニ前記ノ義務ヲ履行スルコトヲ要ス

第四条

連盟規約第十五条第四項、第五項、第六項及第七項ノ規定ヲ一層完全ナラシムル為署名国ハ左ノ手続ニ從フコトニ同意ス

一 連盟理事会ニ付託セラレタル紛争カ前記第十五条第三項ニ定ムルカ如ク理事会ニ依リ解決セラレサル場合ニ於テハ理事会ハ当事国ヲシテ右紛争ヲ司法的解決又ハ仲裁裁判ニ付セシムルコトヲ説得スルニ力ム

二 (イ)当事国カ右ニ関シ合意ヲ遂クルコトヲ得サル場合

報告書中ノ勧告ニ從フヘキコトニ同意ス

四 連盟理事会カ紛争当事国ノ代表者ヲ除キ他ノ會員全

部ニ依リ同意セラレタル報告書ヲ作成スルヲ得サル

場合ニ於テハ右理事会ハ該紛争ヲ仲裁ニ付託スヘシ連盟理事会ハ自ラ仲裁委員会ノ構成、權限及手続ヲ定ムヘク且仲裁委員ノ選定ニ付テハ前記第二項(イ)ニ定ムル能力及公平ノ保障ニ留意スヘシ

五 如何ナル場合ニ於テモ既ニ關係当事国ノ一国ニ依リ受諾セラレタル連盟理事会全会一致ノ勧告アリタル解決方法ハ再ヒ之ヲ争フコトヲ得ス

六 署名国ハ与ヘラレタル司法判決又ハ仲裁判定ヲ誠実ニ履行シ且前記第三項ニ定メラレタルカ如ク連盟理事会ニ依リ勸告セラルル解決方法ニ從フヘキコトヲ約ス一国カ右約束ヲ履行セサル場合ニ於テハ連盟理事会ハ之カ遵守ヲ確保スル為一切ノ尽力ヲ為スヘシ連盟理事会カ右尽力ニ依ルモ其ノ効ナキトキハ同理

事会ハ連盟規約第十三条ノ末項ニ定ムル規定ニ從ヒ之ヲ履行セシムル為如何ナル処置ヲ執ルヘキヤヲ提議スヘシ一国カ前記約束ヲ無視シテ戦争ニ訴フルカ

二 國際紛争ノ平和的処理ニ関スルジュネーヴ議定書関係

ニ於テハ少クトモ右当事國中ノ一國ノ請求ニ依リ仲裁委員会ヲ構成スヘシ該委員会ハ成ルヘク当事國間ノ合意ニ依リ之ヲ構成スヘシ

(イ)連盟理事会ノ定メタル期間内ニ当事國カ仲裁委員ノ數、氏名及權限並手續ニ關シ其ノ全部又ハ一部ニ付合意ヲ遂クルヲ得サル場合ニ於テハ連盟理事会ハ未決ノ点ヲ解決スヘシ連盟理事会ハ成ルヘク急速ニ当事國ト協議ノ上国籍、人格及経歷上其ノ能力及公平ノ点ニ於テ最高ノ保障ヲ与フルモノナリト認ムル者ノ中ヨリ委員及議長ヲ選任スヘシ

(イ)当事國ノ要求ノ作成セラレタル後仲裁委員会ハ何

レカノ当事國ノ請求ニ基キ連盟理事会ノ仲介ヲ經テ常設國際司法裁判所ニ対シ該紛争ノ法律上ノ争点ニ付勧告的意見ヲ求ムヘン斯カル場合右裁判所ハ成ル

ハ再ヒ該紛争ヲ審査スヘシ連盟理事会カ紛争当事國代表者ヲ除ク他ノ會員全部ニ依リ同意セラレタル報

告書ヲ作成スルニ至リタル場合ニ於テハ署名国ハ右

第五条

如キ場合ニ於テハ連盟規約第十六条ノ定ムル制裁ハ本議定書中ニ提示セラルルカ如キ解釈ノ下ニ直ニ之ヲ適用セラルヘシ

七 本条ノ規定ハ署名国ノ一国又ハ二国以上カ連盟理事會又ハ連盟總會ノ同意ヲ得テ執リタル戰爭手段ノ結果生スル紛争ノ處理ニハ之ヲ適用セス

第五条

連盟規約第十五条第八項ノ規定ハ依然連盟理事会ノ手續ニ之ヲ適用スヘシ

前記第四条ニ定メラレタルカ如キ仲裁裁判ノ手續中ニ於テ当事國ノ一國カ紛争又ハ其ノ一部カ國際法上專ラ該國ノ國內管轄ニ屬スル事項ヨリ生シタルモノナルコトヲ主張スルトキハ仲裁委員ハ此ノ点ニ付連盟理事会ノ仲介ヲ經テ常設國際司法裁判所ノ意見ヲ求ムヘン該裁判所ノ意見ハ仲裁委員ヲ拘束スヘク仲裁委員ハ右意見カ肯定的ナルトキハソノ判定中右ノ旨ヲ宣言スルニ止ムヘシ

前記裁判所又ハ連盟理事会カ該事項ヲ以テ専ラ該國ノ国内管轄ニ屬スモノナリト認ムル場合ト雖モ右決定ハ連盟理事会又ハ連盟總會カ連盟規約第十二条ニ基キ事態ヲ審査ス

ルコトヲ妨ケサルモノトス

第六条

連盟規約第十五条第九項ニ從ヒ紛争力連盟総会ニ移サレタルトキハ連盟総会ハ右紛争處理ノ為連盟規約第十五条第一項、第二項及第三項並前記第四条第一項ニ定ムル方法ニ依リ当事国ヲ和解セシムルニカムルニ付連盟理事会ニ与ヘラレタル一切ノ権限ヲ有スヘシ

連盟総会カ平和的處理ヲ達成セサルトキハ左ノ措置ヲ執ルヘシ

当事国ノ一国カ仲裁ヲ依頼スルトキハ連盟理事会ハ前記

第四条第二項(i)、(ii)及(iii)ニ定ムル方法ニ依リ仲裁委員会ヲ構成スヘシ

何レノ当事国モ右仲裁ヲ依頼セサルトキハ連盟総会ハ再ヒ該紛争ヲ審査スヘク此ノ場合連盟理事会ト同一ノ権限ヲ有スヘシ連盟総会ノ報告書中ニ包含セラルル勸告ハ右報告カ連盟規約第十五条第十項末段ニ定ムルカ如キ同意ヲ得タル場合ニ於テハ本議定書中ニ定ムル一切ノ事項ニ關シ前記第四条第三項ニ定ムル如ク連盟理事会ノ採用シタル報告書中ニ包含スル勸告ト同一ノ価値及効力ヲ有ス

供与スヘキコトヲ約ス

連盟理事会ノ執ルヘキ上ニ定ムル措置ノ唯一ノ目的ハ紛争ノ平和的處理ヲ容易ナラシムルニ在リ故ニ該措置ハ決シテ

最後ノ処理ヲ予断スルヲ得ス

前記ノ審査及調査ノ結果本条第一項ノ規定ノ違反ヲ確定シタルトキハ連盟理事会ハ右違反ヲ為シタル一国又ハ數国ニ對シ其ノ違反ノ事實ヲ除去セムコトヲ督促スルノ義務ヲ有スヘシ前記ノ一国又ハ數国カ右督促ニ從ハサルトキハ連盟理事会ハ此等ノ國カ連盟規約又ハ本議定書ニ違反セルコトヲ宣言シ且世界ノ平和ヲ脅カスヘキ性質ノ事態ヲ成ルヘク速ニ終止セシムル為執ルヘキ措置ヲ決定スヘシ

本条ノ為ニスル連盟理事会ノ決定ハ三分ノ二ノ多數決ニ依ルヘシ

第八条

第十条

署名國ハ他國ニ対シ侵略ノ脅威ヲ構成スルカ如キ行動ヲ抑止スルコトヲ約ス

署名國中ノ一国カ他國ニ於テ戦争ノ準備ヲ為シツアリト

認ムルトキハ該國ハ右事項ニ付連盟理事会ノ注意ヲ喚起スルノ権利ヲ有スヘシ

ヘシ必要ナル多數ヲ得ルコト能ハサルトキハ該紛争ハ之ヲ仲裁裁判ニ付託スヘク連盟理事会ハ第四条第四項ニ定ムルカ如ク仲裁委員会ノ構成、権限及手続ヲ決定スヘシ

第七条

二国又ハ二国以上ノ署名國間ニ紛争生シタルトキハ此等ノ諸国ハ右紛争カ平和的處理手続ニ付託セラル前又ハ其ノ手続中本議定書第十七条ニ定ムル軍備縮小會議ニ依リテ確定セラルヘキ現状ヲ変更スルカ如キ軍力及戦闘力ノ増加ヲ為サルコト、陸軍、海軍、空軍、產業又ハ経済ノ動員ニ又ハ之ヲ一層鋭敏ナラシムルカ如キ種類ノ一切ノ行動ヲ執ラサルコトニ同意ス

紛争当事國ノ一国又ハ二国以上カ連盟理事会ニ対シ前記約束ノ違反ニ関スル訴ヲ為シタルトキハ連盟規約第十二条ノ規定ニ從ヒ之ヲ審査スルノ義務ヲ有ス連盟理事会ハ右訴カ調査ヲ要スルモノナリト認ムル場合ニ於テ一国又ハ二国以上ノ関係国内ニ於テ審査及調査ヲ為スヲ便宜ナリト認ムルトキハ右手段ニ依ルヘシ右審査及調査ハ成ルヘク急速ニ之ヲ行フヲ要シ署名國ハ之カ実行ノ為一切ノ便宜ヲ得ヘン

第九条

連盟理事会ハ右ノ事項カ事實ナルコトヲ確メタルトキハ第七条第二項、第四項及第五項ニ定ムルカ如キ措置ヲ執ルヘシ

非武装地帯ノ存在ハ侵略ヲ防止シ且下記第十条ニ定ムルカ如キ性質ノ確實ナル認定ヲ容易ナラシムルモノト認メラルニ付本議定書違反ノ防止手段トシテ互ニ同意スル國家間ニ於テ右地帯ヲ設置セムコトヲ勧告ス

既ニ条約ノ規定ニ基キテ現存シ又ハ将来互ニ同意スル國家間ニ於テ設定セラルコトアルヘキ非武装地帯ハ接壤國ノ一国又ハ數国ノ請求及其ノ費用ニ依リ連盟理事会ニ依リ構成セラルヘキ一時的又ハ常設的ノ監督機関ノ下ニ之ヲ置クヲ得ヘン

連盟規約又ハ本議定書ニ定ムル約束ニ違反シテ戦争ニ訴フル一切ノ國ハ侵略國トス非武装地帯ニ関スル規則ノ違反ハ戦争ニ訴ヘタルト同様ナリト看做サルヘン

敵対行為ノ開始セラレタル場合ニ於テ全会一致ヲ以テ採用セラルルヲ要スル連盟理事会ノ決定カ然ラスト宣言スル場

合ノ外左記ニ該当スル國ハ侵略國ト推定セラルヘシ

一 紛争ヲ連盟規約第十三条及第十五条ニ規定セラレ本
議定書ニ依リ拡張セラレタル平和的處理手続ニ付託シ

又ハ司法判決、仲裁判定若ハ連盟理事会全会一致ノ勧
告ニ從フコトヲ拒絶シ又ハ該國及他ノ交戰國間ノ紛争

カ國際法上専ラ右他ノ交戰國ノ國內管轄ニ関スル事項
ヨリ生シタルモノナルコトヲ認ムル連盟理事会全会一
致ノ報告、司法判決又ハ仲裁判定ヲ無視シタル國但シ
最後ノ場合ニ於テハ該國ハ右事項ヲ連盟規約第十一条

ニ從ヒ予メ連盟理事会又ハ連盟總會ニ付託セサリシ場
合ニ限り侵略國ト推定セラルモノトス

二 本議定書第七条ニ定ムル手續ノ進行期間中連盟理事
會ノ命スル一時的措置ニ違反シタル國

本条第一項及第二項ニ定ムル場合以外ニ於テ連盟理事会カ
直ニ侵略國ヲ決定スルヲ得サルトキハ理事会ハ交戰國ニ對
シ休戦ヲ命シ又必要ノ場合ニハ三分ノ二ノ多數ニ依リ右休
戦ノ条件ヲ決定シ且之カ履行ヲ監督スルノ義務ヲ有ス
右休戦ノ受諾ヲ拒絶シ又ハ其ノ条件ニ違反シタル交戰國ハ
侵略國ト看做サルヘシ

連盟理事会カ本議定書第十条末項ニ定ムル制裁ヲ適用スヘ
キコトヲ署名國ニ要求スルトキハ連盟規約第十六条第一項
シ直ニ適用スルコトヲ署名國ニ要求スヘシ右要求ヲ受ケタ
ル署名國ハ之ニ依リ交戰權ヲ行使スルコトヲ得ヘシ

第十一條

連盟理事会カ本議定書第十条第三項ニ從ヒ攻撃セラレ又ハ脅
威セラル國ヲ援助シ又各種ノ原料品及需品ノ補給、信用
制度ノ開始並運輸及通過ニ關シ便宜ノ供給及相互の交換ノ
方法ニ依リ相互的支持ヲ与ヘ且右目的ノ為ニハ攻撃セラレ
又ハ脅威セラル國ノ陸路及海路ニ由ル交通ノ安全ヲ維持
スル為出來得ル限リノ一切ノ措置ヲ執ルヘキコトヲ共同シ

右義務ハ各署名國カ連盟規約ヲ支持スル為並其ノ地理上ノ
地位及其ノ軍備ニ關スル特殊状態ノ許ス程度ニ於テ侵略行
為ニ抵抗スル為誠実ニ且有効ニ協力セサルヘカラサルコト
ヲ意味スルモノト解釈セラルヘシ

署名國ハ連盟規約第十六条第三項ニ從ヒ攻撃セラレ又ハ脅
威セラル國ヲ援助シ又各種ノ原料品及需品ノ補給、信用
制度ノ開始並運輸及通過ニ關シ便宜ノ供給及相互の交換ノ
方法ニ依リ相互的支持ヲ与ヘ且右目的ノ為ニハ攻撃セラレ
又ハ脅威セラル國ノ陸路及海路ニ由ル交通ノ安全ヲ維持
スル為出來得ル限リノ一切ノ措置ヲ執ルヘキコトヲ共同シ

テ又ハ各個ニ約ス

第十条ニ照シ両紛争当事國カ侵略國ナルトキハ右両國ニ對
シ經濟上及財政上ノ制裁ヲ適用スヘシ

第十二条

連盟理事会カ經濟上及財政上ノ制裁ニ關シ本議定書第十一
条ニ定ムル職務ノ執行ヲ要求セラル場合ニ於ケル条件ノ

複雜ナルニ鑑ミ且本議定書カ署名國ニ与フル保障ヲ一層確
実ニ決定スル為理事会ハ財政上及經濟上ノ制裁ノ実行ノ為
執ルヘキ処置ノ性質並連盟規約第十六条及本議定書第十一
条ニ定ムル協力ノ手段ニ付審査シ且報告セシムル為國際連
盟ノ經濟及財政ノ機關ヲ直ニ招集スヘシ

右報告アリタルトキハ連盟理事会ハ其ノ権限アル機關ヲ通
シ左ノ計画ヲ作成スヘシ

一 侵略國ニ対シ經濟上及財政上ノ制裁ヲ適用スル為ノ
行動ニ關スル計画

二 攻撃セラレタル國ト之ヲ援助スル他國トノ間ノ經濟
上及財政上ノ協力ニ關スル計画

尚右計画ハ之ヲ連盟國及他ノ署名國ニ通告スヘシ

第十三条

制裁ノ適用ヲ停止シ且常態ヲ再設スヘキコトヲ宣言スルハ
専ラ連盟理事会ノ權能ニ属スヘシ

第十四条

本議定書ノ精神ニ從ヒ署名國ハ本議定書ノ規定ニ基キ侵略
抑圧ノ為行ハレタル一切ノ陸軍、海軍又ハ空軍ノ行動ニ依
第十五條

リ生シタル全部ノ費用並非軍人タルト軍人タルトヲ問ハス
個人ノ蒙リタル一切ノ損害及両当事者ノ前記ノ行動ニ依リ
生シタル一切ノ物質上ノ損害ニ対スル賠償ヲ侵略國ヲシテ
其ノ能力ノ許ス極限迄負担セシムルコトニ同意ス
但シ連盟規約第十条ニ鑑ミ如何ナル場合ニ於テモ本議定書
ニ定ムル制裁ノ適用ニ依リ侵略國ノ領土保全又ハ政治的独立ニ影響ヲ及ホスコトヲ得ス

第十六条

署名國ハ其ノ一國又ハ數國ト本議定書ニ署名セス且國際連盟ノ連盟國ニ非サル一國又ハ數國トノ間ニ紛争シタル場合ニ於テハ右非連盟國ニ対シ連盟規約第十七条ニ定ムル条件ニ従ヒ平和的処理ノ為本議定書ノ署名國ニ依リ受諾セラレタル義務ニ服スヘキコトヲ勧誘スヘキコトニ同意ス

右勧誘セラレタル國ニシテ前記ノ条件及義務ヲ受諾スルコトヲ拒絶シ署名國ニ対シ戰爭ニ訴ヘタルトキハ本議定書ニ依リ解釈セラレタル連盟規約第十六条ノ規定ヲ該國ニ適用スヘシ

第十七条

署名國ハ連盟理事会ニ依リ招集セラレ且千九百二十五年六

月十五日月曜日ニ「ジユネーヴ」ニ於テ会合スヘキ國際軍備縮小會議ニ参加スヘキコトヲ約ス連盟國タルト然ラサルトヲ問ハス一切ノ國ハ右會議ニ招請セラルヘシ
右會議招集ノ準備トシテ連盟理事会ハ本議定書第十二条及第十三条ニ定ムル約束ヲ尊重シ同會議ニ提出セラルヘキ軍備縮小及制限ニ関スル一般的議題ヲ作成スヘシ右議題ハ成ルヘク早キ期日ニ且遲クトモ同會議会合ノ三月前ニ之ヲ各政府ニ通告スヘシ
千九百二十五年五月一日迄ニ少ナクトモ常任連盟理事國ノ過半数及他ノ連盟國ノ十箇國カ批准書寄託ヲ為ササルトキハ連盟事務總長ハ右招集ヲ取消スヘキヤ又ハ單ニ所要数ノ批准書カ寄託セラルル迄該會議ヲ延期スルニ止ムヘキヤニ付連盟理事会ト直ニ協議スヘシ

第十八条

本議定書ノ第十条又ハ其ノ他ノ規定ニ於テ連盟理事会ノ決議ヲ要スルモノト為シタル場合ニ於テハ連盟規約第十五条ニ照シ即チ紛争当事國代表者ノ投票ハ全会一致又ハ所要多数ノ表決ニ数ヘラレサルモノト之ヲ解釈スヘシ

第十九条

本議定書ハ其ノ条項ニ依リ明カニ定メラレタルモノヲ除キ連盟規約ニ依リ定メラレタル連盟國ノ権利及義務ニ何等ノ影響ヲ及ホササルヘシ

第二十条

本議定書ノ解釈ニ關スル一切ノ紛争ハ常設國際司法裁判所ニ之ヲ付託スヘシ

第二十一条

本議定書ハ仏蘭西語及英吉利語ヲ以テ共ニ其ノ正文トシ批准ヲ要ス批准書ノ寄託ハ成ルヘク速ニ國際連盟事務局ニ之ヲ為スヘシ

政府ノ所在地カ歐羅巴以外ナル國ハ其ノ批准済ノ旨ヲ國際連盟事務局ニ通報スルニ止ムルコトヲ得ヘシ此場合ニ於テ

ハ該國ハ成ルヘク速ニ批准書ヲ送付スルコトヲ要ス
常任連盟理事國ノ過半数及他ノ連盟國ノ十箇國カ其ノ批准書ヲ寄託シ又ハ批准ヲ為シタルトキハ事務局ハ直ニ之ニ関スル調書ヲ作成スヘシ

本議定書ハ前記調書カ作成セラレタル後軍備縮小ニ関スル計画カ第十七条ニ定ムル會議ニ依リ採用セラルル計画ニ同意セサル署名國ハ本議定書ノ規定ニ依リ生スル利益ヲ享有スルコトヲ得ス

右証拠シテ之カ為正当ニ委任ヲ受ケタル下名ハ本議定書ニ署名セリ

千九百二十四年十月二日「ジユネーヴ」ニ於テ本書一通ヲ作成シ連盟事務局ノ記録ニ之ヲ保存ス事務局ハ其ノ実施ノ日ニ於テ之ヲ登録スヘシ

六二 十月三日 在ジユネーヴ連盟總会代表ヨリ

幣原外務大臣宛(電報)

安達修正案ニ關シ米國方面ノ誤解防止ニ務メオ

於テ直ニ実施セラルヘシ

二 國際紛争ノ平和的處理ニ關スルジユネーヴ議定書關係

六二

ル旨報告ノ件

七七

第一一八号 (十月四日接受)

貴電第五九号米国方面ニ於ケル誤解防止策ハ當方ニテモ当初ヨリ出来得ル限り注意シタル所ニシテ秘密会ニテモ公会ニテモ亦新聞通信員トノ會見ニテモ機會ヲ捉ヘテ説明ヲ怠ラス最後一日總会ニテモ往電第一一一号ノ如ク石井ノ演説中ニモ言及シタル次第ナリ

六三 十月六日(着) 在サン・フランシスコ大山總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

日本側態度ニ關スル米国各紙ノ報道報告ノ件

第二七二号

往電第二七〇号ニ關シ

一、十月一日「ブレッチン」ハ日本全權今次ノ態度ニ依リテ最モ戒心ヲ要スルハ米国ニアラスシテ濠州ナリ日本ノ識者カ多年平和的侵略ノ目標ヲ濠州ニ置キ来レルコトハ疑ノ余地ナク之ニ対シ濠州カ白濠主義ノ下ニ日本ヲ仮想敵國ト看做シ軍備充実ヲ計画シ居レルモ濠州ハ到底日本ノ敵ニアラス彼等カ連盟ノ道徳的支持及英本国ノ軍事的援助ヲ求ムルハ当然ナリ

二、十月一日「クロニクル」ハ日本ハ移民問題ヲ以テ純粹

アラス

在米大使、連盟全權へ転電セリ

六四 十月七日 在パリ松田連盟事務局長ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

連盟総会ニ於テ決議セラレタル議定書ニ關シ 意見申進ノ件

(十月八日接受)

連第一九三号

石井大使ヨリ

今回寿府ニ於テ決議セラレタル議定書ニ關シ卑見電稟ス

第一、法律問題ニ對スル応訴義務ハ當方ノ必要ト認ムル留保ヲ為シ得ルコトナレハ必要ノ留保ヲ為シ一九一〇年議定

書ニ調印シテ可然

第二、政治問題ニ關シ帝国ハ國際連盟員トシテ既ニ總テヲ仲裁又ハ理事会ニ付議スルノ義務ヲ負フモノナリ今回ノ議定書ニ於テ予メ負フヘキ義務ハ仲裁ノ調停又ハ理事会ノ審査報告ニ服從スルコト之ナリ右調停又ハ審査報告ハ今回議定書無クテモ帝國カ輕々シク之ヲ無視シ或ハ蔑視シ得ヘキモノニアラスシテ事實上ハ議定書ニ加入シタルト等シク之ニ服從スル方世間ノ非難ヲ避ケ其ノ同情ヲ我ニ寄セシムル

ニ於テ結局我利益トナルヘク又右報告又ハ調停カ我ニ不利ナル場合ヲ想像スルモ其ノ利益ト仲裁及理事会ヲ無視シテ世界公論ニ敵視セラルルノ不利トヲ比較スル時ハ後者ノ方遙ニ大ナルヲ見出スラ常トスルナラン

第三、現行連盟規約ノ下ニアリテ正当ナル戦争ト目セラル場合四個アリ(four cases of legitimate wars)即チ甲、防禦戦争
乙、規約第十二条ニ依リ仲裁ノ調停又ハ理事会報告後三ヶ月ヲ経テ起リタル戦争
丙、規約第十五条第八項ヨリ起ル戦争
丁、規約第十六条ニ依リ執ルヘキ戦争行為

右四個ノ場合カ今回ノ議定書ニ依リ如何ナル変化ヲ受クヘキカヲ考フルニ甲及丁ハ現状維持、丙モ又我主張ノ結果議定書第十条ニ依リ aggressive war ト見做サレサルノ途ヲ開キ得ハ之又現状維持トシテ差支無シ残ルハ乙ノ場合トス此ノ場合ニ於テ三個月ヲ経テモ尚ホ戦争ヲ起サシシテ仲裁又ハ理事会ノ言ニ服從セサルコトカ唯一ノ顯著ナル結果トス併シ此ノ場合ト雖モ世界ノ輿論ヲ無視シ規約第十六条ヨリ來タル經濟財政及軍事的制裁ニモ拘ラス戦争ニ訴ヘサル

「カラナルコトアリ得シトハ思ハレサルコト前項ノ如シ
第四、前項ノ如ク今回議定書ハ現行規約ト比シ乙ノ場合ノ
関スル限り我行動ノ自由ヲ拘束スルニ相違ナケレトモ其ノ
拘束ハ議定書加入ヲ拒ムコトニヨリ避け得サルモノナルコ

トニ注意スルヲ要ス即チ議定書カ世界大多数國ノ容ルル処
セサルモノハ勿論非連盟國ト雖モ規約第十七条ノ作用ニ依
リ終ニ議定書及規約ノ制裁ヲ免カルルコト能ハサル結果ニ
帰着ス換言スレハ議定書一度効力ヲ有スル上ハ帝國カ之ニ
加入スルト否トニ拘ラス前項乙ノ場合ノ自由行動ヲ失フノ
結果ハ遂ニ避クベカラス

第五、以上ノ理由ニ依リ本使ハ帝國政府ニ於テ早晚今回ノ
議定書ニ加入スルノ覺悟ヲナサルルヲ得策ト思考ス尤モ今
回寿府ノ空氣ハ一夜造リノ嫌(脱)英、伊ヲ始メ歐米諸國
カ如何ニ之ヲ見ルヘキカハ予見シ易カラス帝國政府カ他國
ニ先ンシテ之ニ加入スルハ輕率タルヘキモ右諸國カ举シテ
之ニ加入シテ議定書カ効力ヲ有スルニ至ルヘキコト明ナル
場合トナラハ帝國ハ直ニ之ニ加入スルコトヲ予メ御決心シ
置カルルコトヲ得策ト本使ハ確信ス

六五 十月十日 在仏國石井大使ヨリ
幣原外務大臣宛

ジ^ヨネーヴ第五回連盟總会終了ニ際シ^ヨリオ

仏國首相ト私信往復ノ件

付屬書一 十月三日付エリオ首相発石井大使宛書簡写
一一 十月四日付石井大使発エリオ首相宛答簡写

機密連本公第一〇号 (十一月二十一日接受)

大正十三年十月十日

在巴里

國際連盟理事會ニ於ケル帝國代表者

特命全權大使子爵 石井 菊次郎 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

壽府第五回連盟總会終了ニ關シ仏國首相ト私信

往復ノ件
仏國首相ハ本使ノ「ゼネバ」ニ於ケル重要ナル任務ヲ果シ
タルニ対シ深厚ナル感謝ノ意ヲ表スル旨ノ私信ヲ本使ニ寄
セタルニ対シ本使ハ聊案外ノ感アリシモ不取敢「ブリア
ン」氏ノ互讓ノ態度ヲ謝スル旨ヲ回答シ置キシカ八日会見
ニ於テ右私信ノ動機ハ当初日本ノ態度強硬ナリシリ鑑^シ妥

協案モ拒絶セラ^ン「ゼネバ」ノ事業水泡ニ終ラ^ンカト氣遣

ヒタルニ日本ノ思慮深キ態度ニ依テ議定書ノ成立ヲ見タル
ヲ喜ヒタルニ由テタルモノト判明セリ就テハ御参考迄右私
信往復互相添^ヘ此段申進候也

(付屬書一)

十月三日付^{ヨリ}オ首相発石井大使宛書簡写

Présidence du Conseil

3 octobre, 1924.

Mon cher Ambassadeur,

Je désire qu'en rentrant à Paris, vous y trouviez

l'expression de ma profonde gratitude pour le rôle si
important que vous avez joué à Genève.

Bien à vous

Signé: E. Herriot

(付屬書二)

十月四日付石井大使発^{ヨリ}オ首相宛書簡写

Ambassade du Japon

Paris, le 4 octobre, 1924.

Mon cher Président,

Venant de rentrer à Paris j'ai trouvé votre très

gracieuse lettre et m'empresse de vous en remercier
du fond de mon cœur. Permettez moi de vous dire en
même temps combien j'ai été reconnaissant de la con-
ciliante attitude de M. Briand au cours de nos conver-
sations parfois difficiles et délicates.

Bien à vous

Signé: K. Ishii

六六 十月十八日 在英國林大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

ジ^ヨネーヴ議定書ノ規定スル軍縮會議ニ關ス
意見具申ノ件

第七十五号

(十月十九日接受)

國際紛争平和的處理ニ關スル連盟議定書ニ對スル當國側ノ
態度ニ關シテハ往電第七二四号ヲ以テ申進タル処右議定書
ノ規定スル軍備縮小會議ノ事業ニ關シテハ本使ニ於テ些^シカ
疑念ヲ有スル点アリ左ニ開陳シテ何等御参考ニ供ス

(^ト往電第六八五号現英國政府トシテハ議定書其モノヨリモ
其規定スル明年六月ノ軍縮會議ヲ重要視居ルノ報道ハ労働
黨平素ノ主張^シ照^シ事實^シ真相ニ近カル可^ク少^クトモ現政

府トシテハ同會議ニ於テ主要ナル「ロール」ヲ執ル事ヲ覚悟シ居ルモノト見サルヘカラサル處舊右軍縮會議ヲ引受クル英國トシテハ此上「デスマーム」スル何物ヲモ有セス右ハ米國トシテモ同様ニシテ日本亦既ニ縮小シ得ル限り縮小ニ決定セル今日此ノ上ノ縮小ヲ為シ得サル筋合ナリ從テ本件會議ハ實際ニ於テ歐洲殊ニ仏伊及中央新興國並巴爾幹諸國ノ軍備縮小ヲ議スルニ止マール事トナルヘキカラ右會議ハ仮令規約第八条ニ基キ各國軍備ノ quota ヲ定ムルモノナリトハ云ヘ右會議ニ於テ主要ナル「ロール」ヲ取ル英國（若シ何等カノ方法ヲ以テ米國ノ參加ヲ實現シ得シムル場合ニハ米國モ同様ナリ）ニ於テ華盛頓會議ニ於テ米國ノ為シタル如ク自分ハ之レ丈ノ縮小ヲ加フルカ故ニ諸君モ亦之ニ対応スル縮小ニ同意ス可シトノ態度ヲ執ルヲ得スシテ自分ノ方ハ別ニ縮小スヘキモノナキモ諸君ノ軍備ハ多キニ過クルカ故ニ縮小ヲ要スト云フカ果シテ他ノ諸國ヲ説得シ得ヘキヤ之第一ノ疑問ニシテ次ニ露國ノ現状今日ノ如キ以上露國ノ辺境ニ位スル諸國ニ於テ容易ニ軍備ヲ忽ニスルヲ得サルヘク又伊國ハ飽迄仏國ト同等ノ軍備維持ヲ主張スヘク補助艦、潛水艇等ノ問題議セラルルトセハ仏國政府ニ於テ仮令直ニ

四項中『恒久理事會員ノ多数』トアルヲ仏國側ニ於テハ

『在歐州恒久理事會員三名』トナサント主張シ見タル趣ナルカ右ハ伊國ノ拒絶ヲ予期シ議定書破壊ノ責任ヲ伊國ニ嫁シ同時ニ自己ノ目的ヲ達セムトノ底意ニ出テタルニ非スマトモ想像セラル

(3) 次ニ本使ノ腑ニ落チサル点ハ今回ノ總会前既ニ米國側ニ於テ軍縮會議召集ノ意ヲ仄カシ居タルニ拘ハラス英仏両首相ハ右ト關係ナク連盟自身ニ於テ軍縮會議ヲ召集スルコト

ニ決定シタル理由奈刃ニ存スルヤノ点ナリ或ハ華府軍縮會議ト云ヒ「ドーズ・プラン」ノ実施ト云ヒ重大ナル事件ノ功勞ハ皆米國ニ占メラレ此ノ上更ニ軍縮問題ノ功迄モ同國ノ奪フ所トナリテハ歐州トシテ堪ヘ得スト云フニアルヤトモ想像セラルルカ米國ニ對スル機微ノ事情ハ當國ニ於テハ

絶対ニ外間ニ漏洩セス尤モ以上二項ノ事情ハ却テ白耳義刃ニテ漏ルルヤモ知レサルニ付來倫中ノ安達大使ニ留意方依頼シ置ケリ

(4) 次ニ貴電第三八二号ニ依レハ或ハ主要國ニ於ケル本件議定書採否ノ模様ヲ見テ我カ態度ヲ決定セラレントノ御意向ナリトモ想像セラルル處右議定書カ成立スルモセサルモ本

建造ヲ實現シ得サル迄モ第一等海軍國ト尠クトモ均等ノ兵力維持ノ権利ヲ主張ス可キハ華府會議ノ際ト差異ナキモノト見サルヲ得斯ク觀察シ来レハ明年ノ軍縮會議ハ果シテ予期ノ結果ヲ齎スヘキヤ本使ニ於テハ甚タ疑問ト觀測ス(2) 右軍縮會議ニ於テ最モ苦シキ立場ニ立ツヘキハ仏國ト認メラルル處仏國ハ果シテ右會議及右會議ノ招集ヲ決定セル本件議定書ヲ歡迎シ居ルモノナリヤ元來本件議定書及軍縮會議招集ハ今回ノ連盟總会ニ於ケル英仏共同決議ニ前提シ右共同決議ハ一二英仏両首相カ自ラ總会ニ出馬シタルニ胚胎スルモノト云フヘキ處英仏首相相伴ヒテ右出席ヲ見タルハ英首相ノ主張ニ係リ「エリオ」ハ之ニ同意シタルモノト本使ニ於テハ觀測ス諸英仏首相ノ出席ニ依リ英仏共同決議ヲ見次テ本件「プロトコール」ノ如キ國際紛争平和的處理ノ國際約定及軍縮會議ノ招集實現スルトナレハ平常同様ノ主張ヲ為シ居タル「エリオ」トシテハ仮令内心本件ノ軍縮會議ニ於テ仏國ノ窮境ニ立ツヲ知ルモ正面ヨリ之ニ反対シ得サル立場ニアリ從テ表面上之ヲ歡迎セサルノ事實ハ仏國方面ヨリハ頭ハレ來ラサルヘキカ果シテ右會議ハ仏國ノ歓迎スル所ナルヤ本使ニ於テハ疑ヲ有ス議定書第二十一条第

使トシテハ帝國ニ取りテ別ニ大事件トモ存セサルカ右議定書カ不成立ニ終ル運命ヲ有スルモノナラハ其ノ破壊ノ責任ハ他ノ國ヲシテ取ラシメ帝國トシテハ右破壊ニ加担セル一員中ニ加ハリタク無シト存ス殊ニ我カ全權努力ノ結果免ニ角我レニ満足シ得ル修正ヲ加ヘシメタル事情アルニ於テヨヤ就テハ我レトシテハ他國ノ態度モ顧慮ナク本件議定書採択ノ廟議決定方御措置相成ル様希望ス

六七 十月十八日 在英國林大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

平和議定書ニ對スル英國ノ態度ニ關シ報告ノ件

(十月十九日接受)

第七二八号

貴電第七〇八号ニ關シ

平和議定書ニ對シテハ當國連盟關係者ニ於テ同議定書ヲ以テ國際爭議ノ平和的解決ニ向テ一大進歩ヲ示シタルモノト見做シ之ニ依リ連盟規約ノ欠陷ヲ補ハレ世界ハ軍備縮小ノ實際的計画ヲ進ムニ付充分ノ保障ヲ得タリト說キ熱心ニ之カ採用ヲ慾済スルト共ニ之ヲ競争ノ題目外ニ置クヘシト主張シ居レトモ一般ノ論トシテハ全文公表セラレサルト目

下選挙戰ノ為トヨリ未タ充分之ヲ聞クヲ得ス啻二三新聞紙上同議定書ノ内容ハ其含蓄スル處必シモ明ナラサルヲ以テ之ニ対シテハ充分ノ考察ヲ加ヘ殊ニ本議定書ニ依リ受クヘキ國家的影響ニ付テハ英國カ世界ノ到ル處ニ利害ヲ有シ従テ其起リ得ヘキ爭議ノ種類モ多種多様ナルヘキニ鑑ミ慎重ナル研究ヲ遂クルヲ要スル而已ナラス本件ニ関シテハ事ノ性質上属領ノ意向ヲ尊重スルノ要アル處濱州「ニュウジーランド」加奈陀、南アフリカ共ニ何レモ反対ノ態度ヲ示シ居ルハ注目スヘキ点ナルト共ニ此種計画ニ最重要ナル關係ヲ有スル米國カ連盟ノ外ニ立テル事實ニ顧ミ本議定書ノ採否ニ付輕々シク判断ヲ下ス可カラスト為シ居レリ當國政府カ之ニ対シ如何ナル態度ヲ執ルヘキヤハ次ノ政府カ何政党ニ依リ組織セラルヤニ重大ナル關係アリ若シ一般ノ推測ノ如ク保守党カ政權ヲ獲得スルモノトセハ同黨ハ其ノ「マニフェスト」ニ於テ帝國国防ノ見地ヨリ該議定書ニ対シテ属領トノ協議ニ依リ其包含スル内容ニ付十分吟味スルノ要アリト声明シ居ル結果本議定書ノ採否ヲ決スルニ當リテハ右ニ対スル属領ノ意向ヲ充分考慮ニ入ルヘキハ必然ト思考セラル之ヲ要スルニ本件ニ対スル當國ノ態度ハ新議會ノ構

成及何レノ政党カ内閣ヲ組織スルカヲ見タル後ニ非サレハ達ニ之ヲ判断スルヲ得スト云ハサルヲ得ス

六八 十月二十三日 在伊國落合大使ヨリ

幣原外務大臣宛（電報）

伊國外務省總務長官ヨリプロトコール加入ニ

ツイテハ日伊両國協調シタキ旨打診ノ件

第一〇二号 （十月二十四日接受）

二十一日本使他ノ用事ニテ外務省ニ赴キ居リタル處總務長官ヨリ面会ヲ求メ來リ會見セル處長官ハ同日寿府「プロトコール」ノコトニ就キ Le Conseil des Contentieux（公第九号報告）ヲ開キ居レル旨ヲ告ケ右「プロトコール」討議ニ際シ日本側ヨリ問題起リタルトキニハ伊國政府ニテハ日本ヲ支持スル考ナリシカ問題速ニ解決シテ何等措置ヲ要セサルコトトナリタルナリト語リタル後該「プロトコール」ニ加入スヘキ否ヤノ問題ニ就キ日伊両國ノ立場似寄リタルモノアルニ付テハ予メ両國間ニ協調ヲ遂ケ同様ノ措置ニ出ツヘキコト然ルヘキカト考ヘラルカ日本政府ニ於テ左様ノ御考ヘナキヤ至急其意向ヲ尋ネラレンコトヲ希望スト述ヘタルニ付本使ハ右問合セハ是レヲ取次クコトハ容

易ナルモ一体伊國政府ノ本問題ニ關スル意向如何ニ就キ今少シク具体的ニ承知スルコトヲ得サルヤト問ヒタルニ長官ハ本「プロトコール」ノ成立ニハ常任理事國四個國ノ中三個國ト其ノ他ノ國ノ一定數ノ贊成ヲ必要トスルコトニナリ居ル尙常任理事國中ニハ仏國カ既ニ承認ノ意ヲ表シ居ル外何レモ態度未定ノ狀態ナリ（日本ノ態度ニ付テハ在本邦伊國大使ヨリノ情報モアリタリト語レリ）

英國ハ總選挙ノ後ニ非サレハ態度決セサル可キニ付我等モ

一日ヲ急キ態度ヲ決スル必要モ無カル可キモ日伊両國ノ出方如何ハ隨分重大ナル影響ヲ有スル次第ナリ伊國トシテハ

多数ノ國カ贊成シテ本件成立ヲ見ントスル曉之ヲ拒ミ又ハ反対セントスル事ハ妥当ナラスト考フルニ付主義ニ於テ本件「プロトコール」ニ協力スル意向ナルモ中ニハ實行上果シテ如何ニヤト思ハルル廉モアルニ付或ル "remarque" ヲ付シテ回答セントスル意向ニテ具体的ノ案ハ目下「シャロイヤ」ノ手ニテ起草中ノモノアレハ追テ内示スル事アル可キモ本件伊國ノ申出ニ對スル日本側ノ意向如何ハ至急承リ度キモノナリト述ヘタリ就テハ右ニ對スル應対振ニ付至急御訓令アリ度ク重大ナル差支アリトノ御見込ニ非サル限

リ本件伊國側ノ申出ニ応シ協調ヲ試ムル事種々ノ關係上得策ナリト思考セラル且何レニシテモ「プロトコール」ニ対スル帝國政府ノ御意向及伊國側ニ内示シ差支ナキ範囲等ニ付成ルヘク早目ニ電報ヲ得ハ幸ナリ

六九 十月二十八日 在ベルギー国安達大使ヨリ

幣原外務大臣宛（電報）

平和議定書ニ對スル英國ノ態度今後ノ選挙ノ結果如何ニヨル旨パーモー卿内話ノ件

第一六四号 （十月二十九日接受）

石井大使ヨリ

Parmoor 卿カ本使ニ内話スル處ニ依レハ彼カ帰英後寿府ニ於ケル行動詳細説明ノ結果首先始メ閣僚一同「プロトコール」ニ反対ナキノミナラス日本ノ提議ノ大ニ理由アルコトヲ認識セリト云フ依テ來ル選挙カ現内閣ニ有利ナラハ「プロトコール」ハ二週間にニ承諾セラル可キノミナラス各「ドミニオン」政府ニモ承認方ヲ勧誘スルナランモ之ニ反シ守旧派ノ天下トナラハ同僚中反対者多数ナルニ鑑ミ「プロトコール」ノ運命覚束ナシ但彼等ノ反対モ日本提議ノ容レラレタルカ為ニハアラサルカ如シト付言セリ

在米大使ヘ転電シ在欧各大使ヘ暗送セリ

七〇 十一月三日 在パリ松田連盟事務局長ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

平和議定書ノ進行報告及ビ議定書賛否ニ関ス
ル方針請訓ノ件

連第二三〇号

石井ヨリ

（十一月四日接受）

英國總選挙カ寿府「プロトコール」ニ及ホス影響ニ付テハ
武府ヨリ電票セルカ其後理事会及事務局辺ノ所見ヲ取ルニ

「プロトコール」ト軍縮會議カ予定通り進行スルハ到底電
束ナク畢リ「プロトコール」ハ彼ノ儘来年ノ総会ニ移サレ

第六総会ハ其時ノ形勢ニ依リ討議ヲ続クルコトナルナラ
ント觀察スルモノ多シ果シテ右ノ如ク成リ行クトセハ往電

連第一九八号理事会委員会モ法律委員会モ事実（脱？）又
ハ不急ノモノトナルヘキ處右ハ予想ニ過キサレハ羅馬理事
会ニハ「プロトコール」カ順調ニ進ムモノト見テ各理事ハ大
体方針ニ関シ政府ノ訓示ヲ帶有スル要アルヘシ「プロトコ
ール」採否ニ関スル本使ノ卑見ハ往電連第一九三号ノ通り
ナルカ前述ノ次第ニ付仮令我政府ニ於テ卑見ノ如ク議定書

賛諾ニ決シテモ議定書ハ批准ノ定数ヲ得ル能ハスシテ終ニ
軍縮會議ハ御流レトナランカ若シ又不承諾ノ場合ニ於テモ
我方ハ殆ト不承諾ヲ言明セスシテ済ムナラント思ハル兎モ
角大体御方針成ルヘク早ク御電示ヲ乞フ若シ「プロトコ
ール」不承諾ノ場合ニハ其内容ヲ連盟規約ニ書入ルコトヲ
目的トスル法律委員会ニ我法律家ヲ出スノ理由ナキニ至ル
ヘキニ付之ヲ断ルコト然ルヘシト思考ス御参考迄ニ申添フ

七一 十一月十四日 在仏國石井大使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

ジュネーヴ議定書ニ対スル英國新政府ノ態度

ニ関スルエリオ首相、ブリアン外相ノ意見報

告ノ件

連第二二一号

（十一月十五日接受）

「エリオ」首相ハ在仏英大使ヲ通シテ英首相ト意見交換ヲ
ナシタル由伝ヘラルニ付十三日晚餐後本使ヨリ英國新内
閣ノ寿府「プロトコール」ニ対スル意向觀察ヲ問ヒタルニ
「エリオ」ハ此点ニ付未タ的確ナル報道ニ接セサルモ諸般
ノ事情ヨリ察シ殊ニ「セシル」卿カ理事会ニ英國ヲ代表ス
ル旨ノ報道ヨリ考フルニ英國ハ終ニ「プロトコール」ニ署

名批准スルニ至ルナラント想像スル旨答ヘタリ同席ノ「ブ
リアン」氏ハ本使ヨリノ同一ノ問ニ對シ英政府ハ何等力修

正ヲモ付セスシテ議定書ヲ署名批准スヘキヲ確信スト述ヘ
先ニ連盟ニ迫リテ相互援助条約案ヲ議決セシメ乍ラ後ニ至
リ之ヲ排斥シタル英國政府ハ今回再ヒ連盟ニ強ク勧誘シテ
「プロトコール」案ヲ決セシメ又々之ヲ排斥スル時ハ連盟

ニ対シテハ勿論世界平和問題ニ對シ全然面目ヲ失スル立場
ニ陥ルヘク右ハ如何ニ議会ニ多数ヲ有スル内閣ト雖到底敢

テ為シ得サルヘント付言セリ又英國新内閣ハ米国ニ対スル
思惑ヨリ「プロトコール」採用ニ多少躊躇スヘキモ其思惑

ノ程度ハ連盟ニ対スル面目ノ程度ニ比スヘクモアラサルカ
故ニ英國ハ結局署名スヘク米国ト雖連盟カ米国ノ參加ナク

シテ徐々進行発達シ得ルノ実ヲ挙ケタル以上終ニ連盟ニ加
入シ來ルヘントハ仏國連盟局員等ノ說ナリ

リ

請ノ件

連第二三六号

（十一月二十日接受）

往電第二三三四号ノ（一）ニ關シ

石井ヨリ

英國政府ハ十一月十五日付公文ヲ以テ同政府就任日浅ク寿
府議定書ニ對シ熟考ノ要アリ次回理事会迄ニ其ノ代表者ニ
遺憾ナカラ次回理事会日程ヨリ右「アイテム」ヲ削除シ之
ヲ其ノ後ノ會議ニ延サンコトヲ請求セサルヲ得スト連盟事
務總長ニ申送レル趣ニテ右公文ヲ事務總長ヨリ通牒シ來レ
リ

故ニ英國ハ結局署名スヘク米国ト雖連盟カ米国ノ參加ナク

シテ徐々進行発達シ得ルノ実ヲ挙ケタル以上終ニ連盟ニ加
入シ來ルヘントハ仏國連盟局員等ノ說ナリ

リ

連第二三七号

（十一月二十一日接受）

往電連第二三六号ニ關シ石井ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

「ジュネーヴ議定書ニ対スル英國ノ態度ニツキ

ドラモンド事務總長談話ノ件

七二 十一月十九日 在パリ松田連盟事務局長ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

次回理事会議題ヨリ軍縮會議招集準備事項ヲ

削除スルヨウ英國政府ヨリ連盟事務總長宛要

二 國際紛争ノ平和的處理ニ關スルジュネーヴ議定書關係

七二 七三

八七

事項ヲ除外スル外無ク元來カ来年六月軍縮會議開会ハ早ヤ
過キル觀アリシ位故今日英政府請求ノ結果右會議ハ少クモ
延期セラルヘク若シ電報ニシテ伝フル如ク米國政府ニテ海
空両軍ニ関スル會議ヲ招集スルコトトモナレハ其後ニ至リ
連盟ハ期ヲ見テ陸軍軍縮會議ヲ開ヒテ可ナラント述ヘ尚英
国首相及外相トモ「ゼネバ」議定書ニ対シ好感ヲ有シ居リ
只「ドミニオン」側ト協議ヲ要スルカ為延期ヲ申出テタル
迄ナレハ之ヲ以テ「プロトコール」其物ニ反対ト見ルハ當
ラスト内話セリ羅馬ヘハ多分「チエンバレン」氏自ラ出馬
スルナラント言フ

往電連第二三六号ト共ニ在欧大使ニ郵送シ米ヘ転電セリ

七四 十一月二十日 在英國林大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

英國政府ハ議定書ヲスクラップスル意向ナリ

トノ報道ヲ同國政府取消シタル旨報告ノ件

第七七五号 (十一月二十一日接受)

往電第七七一号ニ関シ

壽府議定書ニ関スル「テレグラフ」ノ記事ハ同電ノ通英國
政府ニ於テ Agenda 變更方要求シタルコトヲ報道スルト

七五 十二月九日 在伊國落合大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

平和議定書ニ対スル英國ノ態度ニツキチエ

バレン英國外相内話ノ件

第一三三四号 (十二月十日接受)

石井ヨリ

壽府議定書問題ニ就キ英外相カ本使ニ内話スル処ニ拠レハ

英政府ハ未タ本件ヲ考究スルノ遑ナク從テ「ドミニオン」
トモ協議スルノ運ニ至ラス蓋否共全然未定ナリ曩ニ去ル五
日「エリオ」八日「ムソリニ」ニ面談シタル際ニモ先方ノ
決定意見ヲ承知スルヲ悦フモ英國ノ方針ハ去就何レトモ申
述フル能ハサル旨ヲ前以テ断リ置キタリト言フ又八日夜宮
中宴会ニテ「ムソリニ」ハ本使ニ対シ伊國ハ本件ヲ延期ス
ル(renvoyer スル)ニ決シ居ル旨ヲ語レリ

七六 十二月十日 在伊國落合大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

議定書ニ予見セル軍縮ソノ他ノ準備事業ヲ延
期スペシトノ英國政府ノ提議ニ関スル件

第一三三七号 (十一月十一日接受)

石井ヨリ

第三十二回理事会ハ八日ヨリ開会シ予定ノ議題ヲ討議セル

カ議定書ニ予見セル軍縮其他ノ準備事業ヲ延期スヘシトノ
英國政府ノ提議ニ關シテハ九日午前ノ秘密会ニ於テ「チエ
ムバーレン」ハ英國政府カ最近成立シタル關係上諸般ノ急
務ニ妨ケラレ今日迄重要ナル議定書ヲ充分ニ研究スルノ遑

共ニ右ヲ以テ英國政府カ本議定書ヲ「スクラップ」スルニ
決定シタルモノナリトノ斷定ヲ下セル趣旨ノモノナリシモ
事実ノ真相ニ非スト認メ其点ハ電報ヲ差控ヘタル処置シテ
同日政府ヨリ右記事ニ対シ英國政府ハ未タ本議定書ニ關シ
何等決定ニ達セス之カ決定ニハ屬領トノ協議ヲ要シ急速ノ
間ニ合ハサルヲ以テ不取敢 Agenda 變更方ヲ要求シタル
モノニシテ之カ要求ヲ以テ同政府カ議定書ヲ「スクラッ
プ」スルニ決定シタルモノト為スハ事實ニ非サル旨ノ取消
發セラレタリ二十日ノ「ポスト」ハ議定書ハ仏國保障ノ問
題ト関連セルニ鑑ミ英國政府ハ同議定書ノ満足ナル代案ヲ
見出サヌシテ之ヲ「ドロップ」スルカ如キ事無シトノ記事
ヲ掲ケ居レリ

仏、伊、白ヘ郵送セリ

七六 十二月九日 在伊國落合大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

平和議定書ニ対スル英國ノ態度ニツキチエ

バレン英國外相内話ノ件

第一三三四号 (十二月十日接受)

石井ヨリ

ナク且「ドミニオン」トモ協議ノ必要アルニ付単純ニ本問
題ノ審議ヲ延期セラレタシト要求シ「ブリアン」ハ英國政
府カ連盟ヲ支持シ其權威ヲ高ムルコトニ余念ナキコトヲ容
認シ仏國政府ハ議定書ヲ熱心支持スルモノナルモ英國政府
ノ正當ナル要求ニハ同意ヲ与フルニ吝ナラスト述ヘ本使其
他一同延期ニ異議ナク結局報告委員ノ提議ニテ今次理事会
ノ議題タル本問題ヲ其儘來年三月ノ理事会ニ延期スルコト
ニ決シ公開會議ヲ開キテ右ノ通り發表シ其意味ノ儘ニ通過
セリ因ニ西班牙ハ今日議定書ニ調印セリ(以下省略)

七七 十二月十日 在伊國落合大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

ジュネーヴ議定書ニ対スル英、伊ノ態度ニ關
シ報告ノ件

第一三三八号 (十二月十一日接受)

石井ヨリ

往電第二三七号議定書問題延期ノ件ハ午前秘密会ニ於テ仕
組マレタル幕ヲ實行シタルモノナルカ本件ニ關シ「チエ
ムバーレン」ハ秘密会ニテモ公会ニテモ言フ処率直ニシテ何等
隠ス處ナキ態度ヲ明ニセリ爰ニ於テ英政府ハ遂ニ議定書ヲ

二 國際紛争ノ平和的處理ニ關スルジュネーヴ議定書關係

七六 七七

八九

批准スヘキヤニ就キ同僚間臆測種々ニシテ英伊外相間ニハ八日ノ会談ニ於テ是レヲ無期延期ニ内決セリト推測スルモ鮮カラサルカ本使ハ往電第二三四号「チ」氏カ本使ニ語レル処ヲ真相ト思考ス

九日晚餐後「ムソリニ」氏ハ本使ニ向テ理事会ニ於ケル議定書問題ノ経過ヲ尋ネタル上日本カ議定書ニ署名セサレハ伊国モ署名セサルヘシト付言シ其ノ態度幾分前日ト異ナレル感ヲ与ヘタルニ付本使ヨリ然ラハ日本カ署名セハ貴國ハ如何為サル御心算ナリヤト反問セルニ少シク躊躇ノ後日

本カ署名セハ伊国モ遂ニ署名スヘキモノ其ノ署名ハ伊国ノ真意ニ非ス伊国ハ人種問題ヲ初メトシ移民問題ニ至ル迄日本ノ主張ヲ是認スルモノニシテ連盟規約ニハ不満足ナル点ヲ有スト答ヘ米國ノ移民法ヲ攻撃シ伊国ハ同法ノ改正セラレサル限リ米國ニ移民ヲ送ラサル心算ナリト付言ス余談ハ別トシ英伊間ニ議定書ヲ延期ノ名ノ下ニ葬り去ラントスルノ内談無カリシコトハ右ニテ明瞭ト成レリ
往電第二三四号ト共ニ在欧米各大使ニ転電セリ

事項三 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題

七八 一月十一日 在ジュネーヴ林陸軍代表ヨリ
津野陸軍次官宛（電報）
次回常設軍事諮詢委員会ノ議題及ビ混成委員会ニ提出議案ノ要旨報告ノ件

付記 兵器民営条約案ニ関スル一月二十四日付陸軍側意見

国連陸三〇

（一月十二日接受）

二月一日ヨリ軍事委員会開催予定議題ハ混成委員会ヲ廢スヘキヤ否ヤノ問題トス本職ハ混成委員会ト軍事委員会ヲ合シテ一機関トナスノ意見出スレハ之ニ賛成スヘキ意見ナリ

同四日ヨリ混成委員会開会予定兵器民営条約案討議セラル

ヘシ提出議案ノ要旨左ノ如シ

一、取締ハ民営ニノミ適用ス国立工場或ハ國家ノ監督ヲ受ケ且私人ヲ利得セシメサル工場ノ製造ニ適用セス

二、民営ヲ禁止スルニ非ス専ラ之力監督ヲ励行ス

三、目的タル兵器材料ハ専ラ戦争ノ用ニ供スヘキモノニ限

三 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 七八

ル
四、監督手段トシテハ二種ノ免許ヲ認ム一ハ毎年改定セラルヘキ一般免許一ハ各供給契約ニ適応スヘキ特別免許ニシテ一般免許ヲ補足スヘキモノトス右ノ免許ナキ兵器民営ハ總テ之ヲ禁止ス一般免許ハ契約ヲ商議スルノ權ヲ与フ然レトモ政府カ契約ヲ締結及ヒ製產品ノ製造ヲ許スハ特別免許ニ依ルモノトス
五、小営業所買収ノ件ニ関シテハ當該政府ノ優越權ヲ認ム製造ニ關スル新發明ハ當該政府ノ許可アルニ非サレハ總テ之レヲ外國政府或ハ個人ニ売却スルヲ禁ス
六、一般免許有権者ハ投票權ヲ有スル無記名株券ヲ發行スルヲ得ス
七、新聞其ノ他定期公刊物ヲ所有シ或ハ掌握スヘキ企業ニ至大ノ勢力アル会社及之レニ關係アル私人ハ免許ヲ与ヘス
八、兵器製造ニ關スル國際組合及ヒ之レニ類似ノモノニハ其分配官ノ存在スル土地ノ各國政府委員各國政府カ同意